フジフイルム スクエア 2017年度 活動報告書

フジフイルム スクエア 開館10周年記念版

FUJIFILM SQUARE

10th ANNIVERSARY

フジフイルム スクエア
2017年度 活動報告書

フジフイルム スクエア 開館10周年記念版

「FUJIFILM SQUARE（フジフイルム スクエア）」は、富士フイルム株式会社 東京ミッドタウン本社（東京都港区）にある複合型ショールームです。優れた作品の発表の場「富士フイルムフォトサロン」、写真の歴史とカメラの進化を学べる「写真歴史博物館」、最新の写真関連商品を試せる「タッチフジフイルム」、プレミアムデジタルカメラ「GFX・Xシリーズ」の作品展示スペース「ギャラリーX」、化粧品・サプリメントなどの当社ヘルスケア商品を取り揃えた直営店「ASTALIFT ROPPONGI（フジフイルム ヘルスケアショップ）」で構成されています。

当社は創業以来「写真文化」の発展のため、写真の素晴らしさ、楽しさ、感動、残す大切さを一貫して伝えてきました。その一環として2007年3月にフジフイルムスクエアを開館、2017年度までに開催した写真展は延べ1,300回、ご来館いただいた方は600万人におよび、幅広い年代層の方々に数々の作品をお楽しみいただいています。

2017年度は「FUJIFILM SQUARE 開館10周年記念写真展」として、写真の「歴史」・「今」・「明日」という3つのテーマで、「写真の過去・現在・未来」を発信する、さまざまな特別企画展を開催しました。

「プリントだからこそ伝わる、真の写真の価値」という原点に立ち返り、「歴史」のテーマでは、日本および海外の写真家による時代を超える価値を持つ写真作品を展示し、写真の持つ記録性と芸術性を実感いただける秀逸なオリジナル・プリント*1の作品によって、「写真の本質」に触れていただきました。また、「今」のテーマでは、当社の多様なカメラで撮影された写真作品を当社の高品質プリントで仕上げて展示し、現代の写真家が写真に込めたメッセージをお伝えしました。そして「明日」のテーマでは、新たな時代を担う若手写真家に発表の場を提供し、プリントという表現手段で完成させた作品により、SNSとは違ったリアルな共感のスタイルを提案し、お楽しみいただきました。

写真展は「撮った人＝出展者」の気持ちを「見た人=鑑賞者」に伝える場であり、当社は2017年度もさまざまな写真展開催を通じて、両者をつないできました。当社のこれまでの取り組みが評価され、「富士フイルムフォトサロン」「写真歴史博物館」が、公益社団法人企業メセナ協議会*2より「芸術・文化振興による社会創造活動」として、2015年、2016年に引き続き、「THIS IS MECENAT 2017」に認定されました。

2017年、富士フイルムは事業を通じた社会課題の解決により一層取り組み、「サステナブル社会の実現」に貢献すべく、2030年度をターゲットにしたCSR目標「サステナブル・バリュー・プラン2030」を発表しました。この中で、当社写真製品を通じた「心の豊かさ、人々のつながりへの貢献」も目標の一つとして掲げており、当社はフジフイルム スクエアをその実現に向けた活動の場の一つとして位置付けています。

富士フイルムは、写真のリーディングカンパニーとしてこれまで多くの「人」と「人」の心をつなぎ、写真の価値を発信し続けてきました。これからも「写真文化」の新たな発展と、より心豊かな社会の実現のために貢献していきます。

*1　写真家が自分の作品として認めたプリントのこと。

*2　企業による芸術文化支援（メセナ）活動の活性化を目的に1990年に設立された、日本で唯一のメセナ専門の中間支援機関。

CONTENTS

1 企画写真展レポート
FUJIFILM SQUARE 開館10周年記念写真展

p.06 テーマ① 写真の「歴史」を伝える
p.12 テーマ② 写真の「今」を表現する
p.18 テーマ③ 写真の「明日」を追求する

2 企画写真展レポート
FUJIFILM SQUARE 企画写真展

p.21

3 企画写真展レポート
FUJIFILM SQUARE 写真歴史博物館 企画写真展

p.24

4 写真展開催リスト

p.28

5 施設概要レポート

p.32

6 施設案内

p.35

FUJIFILM SQUARE 開館10周年記念写真展

『フジフイルム・フォトコレクション展』
日本の写真史を飾った写真家の「私の1枚」

2017年3月24日–4月12日　　テーマ①　写真の「歴史」を伝える

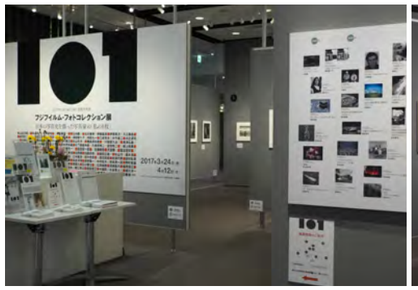
富士フイルムフォトサロン 東京・ミニギャラリー・写真歴史博物館

1

「フジフイルム・フォトコレクション」は、2014年の富士フイルム株式会社創立80周年を記念し、「写真文化を守る」ことを基本理念として、幕末・明治から現代に至る、日本を代表する写真作家101人の記録的価値の高い最高作品を収集したものです。

日本の写真史と写真界の発展の軌跡をご覧いただける本コレクションは、2014年にフジフイルム スクエア（東京）・富士フイルムフォトサロン大阪で展示の後、2016年末までに公立美術館を中心に7か所で巡回展示を行い、写真関係者のみならず美術や芸術に精通する方々からも高い評価をいただきました。また、これらの実績が評価され、本コレクションは公益社団法人企業メセナ協議会より「芸術・文化振興による社会創造活動」として「THIS IS MECENAT 2015」、「同2016」、「同2017」の認定を受けました。

写真に造詣の深い方はもちろん、初めて写真史に触れる若い皆様にも、この機会に世界でも稀有な「写真文化」を築き上げた日本の写真の精髄を、最高の銀塩プリント作品でご堪能いただければ幸いです。（ニュースリリースより）



出展写真家

フェリーチェ・ベアト、上野彦馬、下岡蓮杖、内田九一、日下部金兵衛、小川一真、鹿島清兵衛、福原信三、塩谷定好、桑原甲子雄、安井仲治、福原路草、田淵行男、濱谷浩、岡田紅陽、影山光洋、林忠彦、杵島隆、植田正治、木村伊兵衛、渡辺義雄、岩宮武二、大竹省二、大辻清司、田沼武能、鋤田正義、長野重一、石元泰博、川田喜久治、細江英公、緑川洋一、芳賀日出男、富山治夫、白籏史朗、高梨豊、立木義浩、桑原史成、坂田栄一郎、篠山紀信、土門拳、広田尚敬、小川隆之、久保田博二、土田ヒロミ、荒木経惟、沢渡朔、十文字美信、鈴木清、東松照明、森山大道、北井一夫、田村彰英、奈良原一高、森永純、有田泰而、木之下晃、原直久、江成常夫、倉田精二、杉山守、秋山亮二、操上和美、須田一政、南川三治郎、石内都、牛腸茂雄、深瀬昌久、前田真三、中村征夫、山崎博、北島敬三、水越武、入江泰吉、大西みつぐ、島尾伸三、普後均、ハービー・山口、伊藤義彦、山沢栄子、清家冨夫、長倉洋海、築地仁、水谷章人、宮本隆司、広川泰士、伊奈英次、上田義彦、竹内敏信、三好耕三、星野道夫、今道子、柴田敏雄、田中光常、齋藤亮一、潮田登久子、瀬戸正人、野町和嘉、秋山庄太郎、佐藤時啓、白岡順、鬼海弘雄

（作品撮影年順）

展示作品点数

101点

クレジット

後援：港区教育委員会
企画：富士フイルム株式会社
監修：フォトクラシック
制作：コンタクト
デザイン：ナノナノグラフィックス
プリント制作：写真弘社、プロラボ クリエイトほか

併催イベント

- 飯沢耕太郎氏（写真評論家）による講演会
  「フジフイルム・フォトコレクション」を通してみた日本写真史
  2017年3月25日（土）13:30–15:00
- 写真家・立木義浩氏によるギャラリートーク
  「〈舌出し天使〉とその時代を語る」
  2017年4月1日（土）14:00–/16:00–
- フジフイルム スクエア コンシェルジュによる解説会
  会期中毎日、14:30–/17:00–

販売物

『フジフイルム・フォトコレクション図録』
『フジフイルム・フォトコレクション図録』（コンパクト版）

概況

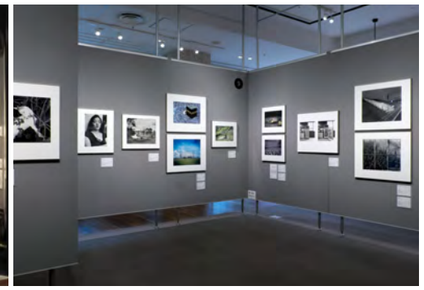
2014年に初めて公開して以来、フジフイルム スクエアでは二度目の開催となるフジフイルム・フォトコレクション展。2014年から2016年末までの間に、巡回展示として、愛知県美術館（愛知県）、伊丹市立美術館（兵庫県）、細見美術館（京都府）、北網圏北見文化センター美術館（北海道）、北海道立釧路芸術館（北海道）、東川町文化ギャラリー（北海道）、八戸市美術館（青森県）と全国各地の美術館で多くの方々にご覧いただき、その後も山梨県立美術館（山梨）、鳥取県立博物館（鳥取）、池田記念美術館（新潟）でも重ねて巡回展示が開催され、現在も高い評価を得ています。

今回の展示では、日本の写真史を俯瞰できる本作品群を「幕末〜明治」、「大正〜昭和戦前」、「戦後〜1960年代」、「1970年代」、「1980年〜」と撮影年代別に構成し、101点の作品を展観しました。幕末・明治から20世紀までの銀塩写真の歩みを、最高の銀塩プリント作品で体感していただくことに本コレクションのねらいがあり、幕末から西洋の写真術を貪欲に取り込み、戦後たゆみなく技術を磨き、優れたカメラや感光材料を開発し続けた日本の写真関連産業を後ろ盾に、写真家たちが独自のスタイルで新たな作品に挑戦してきた歴史を、銀塩プリントを通じて紹介しました。日本の製品が世界をリードしているだけでなく、近年では日本の写真作家の作品が海外で「日本写真」と呼ばれる独自の地位を確立するに至る経緯を理解していただく機会にもなりました。

また、ご来場いただいた幅広い世代のお客様から「懐かしい」という声が多く寄せられました。展示されているいずれかの作品の年代が、それぞれ生きてこられたご自身の時代に重なるが故に、「懐かしい」という共感を持ってご鑑賞いただき、より身近な作品展として親しんでいただけたようです。

併催イベントとして開催された、写真評論家・飯沢耕太郎氏の講演会や、写真家・立木義浩氏のギャラリートークでは、日本の写真史から見たコレクションの価値や、コレクションに含まれる作品が発表された当時のリアルな時代背景を語っていただき、作品をより深く、親しみを持ってご覧いただける機会となりました。

アンケートでは87%の方が「よかった」と回答し、二度目となる展示にもかかわらず、大変好評をいただきました。101点の展示作品を通じ、幕末・明治の黎明期から銀塩写真が全盛を迎える20世紀までの日本の「写真文化」の足跡を深くご理解いただく機会となりました。



主要メディア掲載

- 中央紙、ブロック紙、地方紙
  読売新聞（東京、3月31日）、毎日新聞夕刊（東京、4月3日）、毎日新聞夕刊（北九州、4月3日）、朝日新聞夕刊（東京、4月5日）、朝日新聞夕刊（札幌、4月5日）、毎日新聞（東京、4月7日）、東京新聞（東京、3月23日）、夕刊三重（松阪、3月23日）
- 写真・カメラ誌
  風景写真（3・4月号）、カメラマン（3・4・5月号）、フォトテクニックデジタル（4月号）、フォトコン（4月号）、アサヒカメラ（4月号）、日本カメラ（4・5月号）ほか
- その他新聞
  電波新聞（1月27日）、日本写真興業通信（2月15日）、TOKYO HEADLINE（3月13日）、リビング東京東（3月18日）
- その他雑誌
  ギャラリー（3・4月号）、暮らすめいと（4月号）
- ウェブサイト
  antenna、Pen Online、TOKYO HEADLINE web、デジカメWatch、infoseekニュース、マピオンニュース、YOMIURI ONLINE、毎日新聞、朝日新聞デジタル、いこーよ　ほか

ご来場者数

合計34,465人（20日間）

ご来場者様の声

インパクトのある写真展でした。
さすが展示が洗練されている。説明の方法が
細かく丁寧でわかりやすくとてもいい。
とってもよかったです。懐かしい作品も
ありました。
フィルムの技術の進歩を再認識した。
申し分なく楽しませていただきました。感謝!!
企画も作品もよく、図録が2種類もあり
えらべるのが良かったです。
見応えがあり、満足感を得られる内容だった。
来て良かったです。
写真に触れる機会としてとても良いと感じました。
書籍でしか見たことがない憧れの写真を
目のあたりにして、原画の力に感動しました。
黒白の写真のメリハリや写真に写っていない
部分も想像させられるような雰囲気に圧倒
されました。歴史を考えるような写真が多く、
また、たまたまギャラリートークを聞くことが
できたので、立ち寄って非常に有意義でした。
凄く綺麗な写真や、思いがこもった写真など
沢山の素晴らしい写真が展示されていて
楽しかったです。また来たいと思っています。

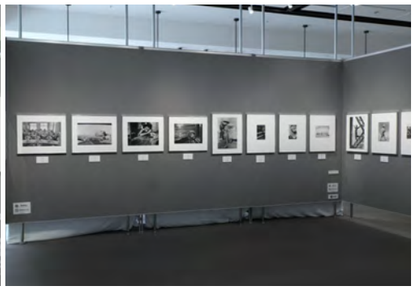
FUJIFILM SQUARE 開館10周年記念写真展
～世界中に影響を与えた写真家集団～「マグナム創設の原点」

2017年10月6日–10月25日　　テーマ①　写真の「歴史」を伝える

富士フイルムフォトサロン 東京・ミニギャラリー

本展は、写真が持つ記録性と芸術性で世界中に大きな影響を与えてきた世界的写真家集団の創設期を伝える写真展です。

マグナム・フォトとは、1947年、ロバート・キャパが発案し、仲間のアンリ・カルティエ＝ブレッソンたちと結成した写真家のグループです。第二次世界大戦中、報道写真家として活躍していた彼らは、独自の視点で世界を見直すことを目的にマグナムを創設しました。折しも世の中は、大戦からの復興と、人権という新しい価値観の共有に向け大きく動き始めていました。記録することを重視し、フォトジャーナリズムの礎を築いたキャパと、瞬間を切り取ることにより写真の芸術性を高めたアンリ・カルティエ＝ブレッソン。マグナムの誕生は、写真に備わる「記録」と「芸術」の二面性をひとつの組織の中で融合し、ドキュメンタリー写真の地位を揺るぎないものに確立した瞬間でもありました。記録と芸術としての写真の力を通じてヒューマニズムに訴えるという、設立当初からのマグナムのスピリット。創設期の写真家たちによる名作を集めた本展は、改めて今の時代を考えるきっかけとなることでしょう。（ニュースリリースより）



出展写真家
ロバート・キャパ、アンリ・カルティエ＝ブレッソン、デビッド・シーモア、ジョージ・ロジャー、ワーナー・ビショフ、マルク・リブー、インゲ・モラス、イヴ・アーノルド、エリオット・アーウィット、デニス・ストック

展示作品点数
70点

クレジット
協力・企画：マグナム・フォト東京支社
後援：港区教育委員会
デザイン：株式会社マッチアンドカンパニー
映画上映会協力：東京ミッドタウン・デザインハブ

併催イベント
- 本展キュレーター・小川潤子氏（マグナム・フォト東京支社）による記念講演会
  2017年10月9日（月・祝）13:30–15:00
- フジフイルム スクエア コンシェルジュによる解説会「初めてでもよくわかるマグナム・フォト」
  会期中毎日開催　14:00–/17:00–（各回約30分）
- マグナム・フォトを映画で知る会
  ■ロバート・キャパ　ナイト
  上映タイトル：「ロバート・キャパ Capa in Love & War」
  2017年10月13日（金）18:30–21:00
  ■アンリ・カルティエ＝ブレッソン　ナイト
  上映タイトル：「アンリ・カルティエ＝ブレッソン 瞬間の記憶」
  2017年10月14日（土）16:00–18:30
  会場：東京ミッドタウン・デザインハブ（ミッドタウンタワー5F）内 インターナショナル・デザイン・リエゾンセンター

販売物
『Magnum Manifesto』（Thames & Hudson）
『マグナムが見た東京』（マグナム・フォト東京支社）
『ブレッソン自選コレクション』（大阪芸術大学）
『Werner Bischof: Backstory.』（Aperture）
『Elliott Erwitt: Personal Exposures.』（W.W. Norton）
『100 Postcards』（Thames & Hudson）
『CAPA IN COLOR』（Prestel）
『Interviews and Conversations』（Thames & Hudson）
『On Style』（Abrams）
『Magnum Legacy』（Prestel）
など 計26種類

主要メディア掲載
- ラジオ
  「TOKYO FM WORLD」TOKYO FM（9月13日）

概況
本展では、マグナム・フォト収蔵の貴重なオリジナル・プリント70点を展示しました。鑑賞の機会が少ないアンリ・カルティエ＝ブレッソンの自選作品や、誰もが一度は目にしたことのあるロバート・キャパの作品のオリジナル・プリントに触れ、「素晴らしい機会を提供してもらった」、「富士フイルムならではの企画」と感激の声を多くいただきました。

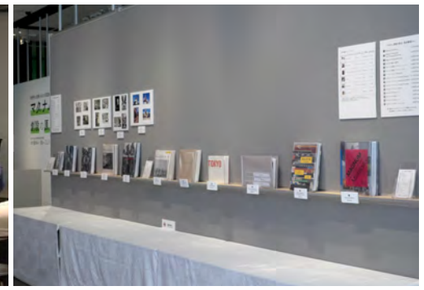
写真が持つ「記録」と「芸術」としての力を融合してヒューマニズムに訴えるという「マグナム・フォト」創設時のスピリットが、現代の報道写真の源流に通じていることを感じていただける機会となりました。

記録することを重視し、フォトジャーナリズムの礎を築いたキャパと、瞬間を切り取ることにより写真の芸術性を高めたアンリ・カルティエ＝ブレッソンをはじめとする創設期の写真家たちの名作を集めた作品群を「創設者4人が写真家として活動を開始」、「第二次世界大戦」、「マグナム創設とその後」の時系列で展示したことにより、第二次世界大戦を契機にフォトジャーナリズムが飛躍する時代背景と作品の関係をわかりやすくご紹介しました。

また、コンシェルジュによる解説会（40回開催、参加684人）やマグナム・フォト東京支社による講演会（1回開催、参加90人）や映画の鑑賞会（2回開催、170人）などの鑑賞サポート活動により理解を深めていただく機会を提供しました。

会場では普段書店で入手が困難な洋書や美術館図録など、21種類の写真集・5種のポストカードセットを販売、合計で約250冊、ポストカード約200セットを販売し、会期途中で完売するケースも多く、マグナム・フォトに対する関心の高さをうかがわせました。

アンケートでは91%の方が「よかった」と回答するなど、幅広い層の多くのお客様から大変好評をいただきました。



- 中央紙、ブロック紙
  日本経済新聞（東京、10月11日）、日本経済新聞（大阪、10月11日）、日本経済新聞（札幌、10月11日）、日本経済新聞（名古屋、10月11日）、日本経済新聞（福岡、10月11日）、東京新聞（東京、10月5日）
- 写真・カメラ誌（紙）
  風景写真（9・10月号）、コマーシャルフォト（10月号）、フォトテクニックデジタル（10月号）、カメラマン（10・11月号）、CAPA（10・11月号）、デジタルカメラマガジン（10・11月号）、フォトコン（10・11月号）、週刊カメラタイムズ（10/17・10/24号）ほか
- その他新聞
  電波新聞（8月15日）、北総よみうり（9月22日）、電化新聞（9月25日）
- その他雑誌
  婦人公論（9/26号）、MEN'S EX（11月号）
- ウェブサイト
  Asahi Shimbun Digital [and]、infoseek ニュース、エキサイトニュース、CNET Japan、SANSPO.COM、ZAKZAK、マピオンニュース、Yahoo! ニュース、Yahoo! ロコ、goo地図　ほか

ご来場者数
合計31,032人（20日間）

ご来場者様の声

マグナム・フォトの写真をじっくり見ることができてとても満足しました。
カルティエ＝ブレッソンの凄さを改めて味わいました。ありがとうございます。
コンシェルジュの方の解説がとても素晴らしかったです !!
こんなにクオリティーの高い内容を無料で提供していることに大感謝。大好きな作品をたくさん素晴らしいプリントで見られてとても嬉しかったです。
ロバート・キャパの写真を見れて楽しかったです。説明が聞けまして、作品が分かりやすくなりました。
報道写真を見ることにより未体験の世界が身近になり平和がありがたいと思いました。
無料でこれだけの作品が見ることができて感激です。また来たい。
思っていたよりも充実している内容でした。解説が聞けたのも良かったです。
写真についての考え方が変わりました。富士フイルムの目指しているものが見えた気がしました。
これからも、質の高い作品を展示してほしいです。

FUJIFILM SQUARE 開館10周年記念写真展

二十世紀の巨匠　美と崇高の風景写真家　アンセル・アダムス

2017年11月17日 – 12月6日

テーマ①　写真の「歴史」を伝える

富士フイルムフォトサロン 東京・ミニギャラリー

アンセル・アダムスは1920年代後半から約60年にわたりアメリカで活躍した最も著名な写真家の一人です。日本では1970年代から美術画廊や写真専門ギャラリーを通じて本格的に作品が紹介され、日本の写真家に多大な影響をもたらしました。広大な自然の中に見出した美と崇高の風景を精緻なモノクロ写真で表現した作品は、今も写真史上の金字塔として語り継がれています。

アダムスは、完璧なモノクロ写真を制作するための「ゾーン・システム」の発明やオリジナル・プリント市場の創出、写真教育機関の拡充など、写真におけるあらゆる分野の開拓者として現代写真の可能性を切り開き、生涯を通じてその発展に寄与してきました。「ネガは楽譜であり、プリントは演奏である」という、音楽家を志した経験を持つアダムス独自の印象的な格言は現在もよく知られるところです。

本展は、京都国立近代美術館の協力を得て、同館所蔵の写真コレクションである「ギルバート・コレクション」の中から厳選されたアンセル・アダムス作品を一堂に展示します。風景写真、そして銀塩写真の最高峰として輝き続けるアンセル・アダムスのオリジナル・プリントは、写真表現とは何かという問いに、一つの明確な答えを与えてくれることでしょう。（ニュースリリースより）

展示作品点数

59点

クレジット

特別協力：京都国立近代美術館

協力：アンセル・アダムス・パブリッシング・ライツ・トラスト

後援：港区教育委員会

企画：フォトクラシック

デザイン：TypeShop_g

併催イベント

- 写真家・三好耕三氏による
  ギャラリートーク＆上映会

  上映タイトル：「Ansel Adams, Photographer」（デヴィッド・メイヤース監督、1958年、約20分）

  2017年11月25日（土）13:30– / 15:30–
- フジフイルム スクエア コンシェルジュによる
  解説会「初めてでもよくわかる、アンセル・アダムス展」

  会期中毎日（11月25日、26日を除く）14:00– / 17:00–
- 東京ミッドタウン・デザインハブとの
  関連イベント

  「アンセル・アダムスを映画と
  ギャラリーツアーで知る会」

  2017年11月26日（日）13:30– / 15:30–

販売物

京都国立近代美術館 所蔵品図録『写真』（京都国立近代美術館）

『400 PHOTOGRAPHS』（Little, Brown）

『IN THE NATIONAL PARKS』（Little, Brown）

アンセル・アダムス 2018年カレンダー（Little, Brown）

アンセル・アダムス ポストカードセット（タテ3種・ヨコ3種、Museum Graphics）

主要メディア掲載

- 中央紙、ブロック紙、地方紙

  朝日新聞夕刊（東京、11月9日）、朝日新聞夕刊（札幌、11月9日）、読売新聞夕刊（東京、11月14日）、読売新聞夕刊（高岡、11月14日）、朝日新聞（富山版、11月23日）、朝日新聞（石川版、11月23日）、朝日新聞（福井版、11月23日）、東京新聞（東京、11月16日）、高知新聞（高知、10月26日・11月30日）
- 写真・カメラ誌（紙）

  デジタルカメラマガジン（11・12月号）、アサヒカメラ（11・12月号）、日本カメラ（11・12月号）、風景写真（11・12月号）、フォトコン（11・12月号）、コマーシャルフォト（12月号）、フォトテクニックデジタル（12月号）、週刊カメラタイムズ（11/21・11/28・12/12・12/19）ほか
- その他新聞

  電波新聞（9月8日）、北総よみうり（10月27日）
- その他雑誌

  岳人（11月号）、Weekly プレイボーイ（10/30号）、山と渓谷（12月号）、週刊文春（11.30号）

概況

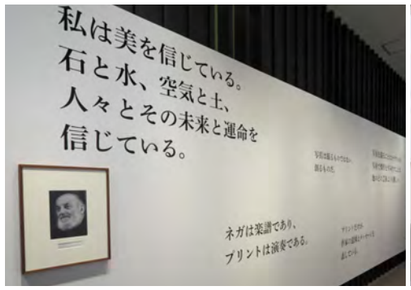
京都国立近代美術館所蔵のアンセル・アダムス作品を展示するという、東京では稀有で貴重な機会となりました。アダムスの仕事の概略や書簡、生い立ち、格言などをグラフィックパネルにより紹介することで、これまで日本ではあまり知られることのなかったアダムスの写真や芸術、人生についての哲学にも触れていただける場を提供し、「アンセル・アダムスの人となりを知る機会になった」と好評をいただきました。

また、本展によせて、ギルバート・コレクションの創設者であるアーノルド＆テミー・ギルバートの子息ジェフリー・ギルバート氏よりメッセージを頂戴し、その一部を会場でご紹介しました。同コレクションが収集された背景など、初出の話題が豊富に認められた全文は見どころガイドに収録され、後日、米国の写真専門機関に収蔵されるなど、国際的にも資料的価値が評価されました。

銀塩写真の最高峰ともいえるオリジナル・プリントに生で触れていただく機会となった本展は、プリントだからこそ伝わる写真の価値を多くの方々に実感していただける場となりました。モニター画面などで手軽にきれいな画像を見ることができる時代になってもなお、プリントという表現手段の訴求力が色あせないこと、また何十年も前に撮影され焼き付けられたプリントが、時を超え、作者の感動を伝えるものであることを実感していただける機会となりました。目で見た感動をプリントの上でどう再現したら伝わるのかを探求し続け、「ゾーン・システム」という技法を開発したアダムスの写真に対する情熱が、最高のプリントを生み出し、そのプリントが国や時代を超えて鑑賞者の心に伝わることを実証した写真展でした。

併催イベントのギャラリートーク＆上映会では、写真家の三好耕三氏にお話しいただきました。三好氏はアダムスと面会経験のある数少ない写真家であり、現役の写真家として最も多くアリゾナ大学センター・フォー・クリエイティブ・フォトグラフィーに作品が収蔵されている写真家で、ギャラリートークでは、自身のアメリカでの経験に基づきながら、アダムスとの出会い、日本でアダムスが紹介されるに至った経緯、アメリカの写真文化について、さらにアダムスの来日計画があったことなどについてお話しいただきました。これまで一部の関係者しか知ることのなかったエピソードが多数披露され、大変貴重な機会となりました。

アンケートでは89%の方が「よかった」と回答するなど、年代や性別を問わず、幅広い層のお客様から大変好評をいただきました。



- ウェブサイト

  デジカメWatch、Asahi Shimbun Digital [and]、インターネットコム、infoseekニュース、Impress Watch、SankeiBiz、SANSPO.COM、ZAKZAK、東京新聞、Response. ほか

ご来場者数

合計36,591人（20日間）

ご来場者様の声

アンセル・アダムス展、ここで見ることができて感激です。

初めて黒白写真を綺麗と思いました。

銀塩写真の魅力をあらためて認識させられた展示でした。

圧巻でした。プリントが本当にきれいで感激しました。

アンセル・アダムスの写真を初めて見ました。予想の上を行くほど美しいプリントでした。

アンセル・アダムス、すごいと思いました。自然を撮影する人が全て彼の真似になってしまいそう。超えるのは半端な力ではできない。

アダムスのオリジナルプリントが見れて感動しました。感謝です。

コンシェルジュの説明が聞けたので大変勉強させていただきました！ありがとう。

写真は時代を記録する美しく貴重な文化財だと改めて思いました。

黒白写真の濃淡がとても綺麗だと思った。

世界的な作品を間近で見られて楽しめました。

アダムスの本物のプリントが見れて感謝しております。

FUJIFILM SQUARE 開館10周年記念写真展
中判ミラーレスデジタルカメラ「FUJIFILM GFX 50S」
中村成一写真展「dewy（デューイー）」

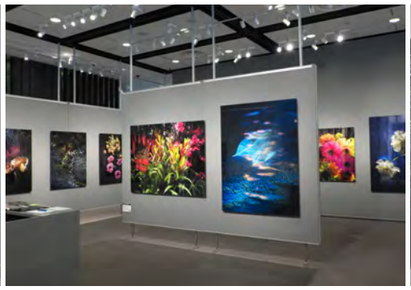
2017年4月21日–4月27日　　テーマ②　写真の「今」を表現する

富士フイルムフォトサロン 東京 スペース1

中村成一氏は、高い撮影技術とライティング技術で、商品撮影、花、ポートレートなど、あらゆるジャンルにおいて、極めてハイレベルな作品を撮ることで知られる広告写真家です。その作品は広告の域を越え、芸術作品としても国内外で高い評価を得ています。

本写真展「dewy」は、富士フイルムが新たに開発した世界最高レベルの高画質を誇る中判ミラーレスデジタルカメラ「FUJIFILM GFX 50S」を使い、中村氏がこの写真展のために撮り下ろした、非常に幻想的で美しい作品で構成されています。（ニュースリリースより）

※ dewy（デューイー）＝露にぬれた状態



展示作品点数
21点

クレジット
企画：富士フイルム株式会社
デザイン：三田村邦亮
プリント制作：プロラボ クリエイト

併催イベント
中村成一氏によるギャラリートーク
2017年4月22日（土）・23日（日）
各日14:00–14:40

主要メディア掲載
- 写真・カメラ誌（紙）
  コマーシャルフォト（4月号）、カメラマン（5月号）、フォトテクニックデジタル（5月号）ほか
- ウェブサイト
  デジカメWatch、Shuffle、livedoorニュース ほか

ご来場者数
合計12,031人（7日間）

ご来場者様の声
中村先生の展示、拝見するのは2回目でしたが、今回も素晴らしかったです。
中村さんの写真はとてもすてきでした。
写真が撮れるのも良かったです。
一流の写真家の作品が観れてよかった。
とても美しかったです。
観やすい空間でよかった。
毎回、発見があります。

FUJIFILM SQUARE 開館10周年記念写真展
中判ミラーレスデジタルカメラ「FUJIFILM GFX 50S」
野波 浩写真展「reflection（リフレクション）」

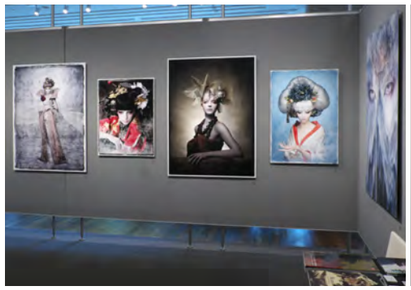
2017年4月21日–4月27日　　テーマ②　写真の「今」を表現する

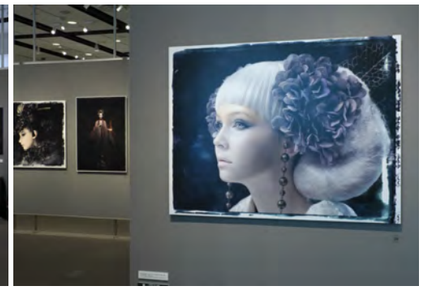
富士フイルムフォトサロン 東京 スペース2

野波 浩氏は、その高い芸術性と幻想的な世界観で、国内外から極めて高い評価を得ている写真家です。野波氏の作品には、その独特の写真技法から、極めて高い描写力と質感、階調再現性が常に求められます。

本写真展「reflection」は、野波氏が、世界最高レベルの高画質を誇る最新鋭の中判ミラーレスデジタルカメラ「FUJIFILM GFX 50S」と、小型軽量ながら高画素フルサイズ一眼に匹敵する超高画質を誇る高性能ミラーレスデジタルカメラ「FUJIFILM X-T2」を駆使し、被写体の女性モデルからスタジオの撮影空間まで独自の世界観に作り上げて撮り下ろした、珠玉の作品展です。（ニュースリリースより）

※ reflection（リフレクション）＝反射・過去を振り返ること





展示作品点数
35点

クレジット
企画：富士フイルム株式会社
デザイン：三田村邦亮
プリント制作：プロラボ クリエイト

イベント
野波 浩氏によるギャラリートーク
2017年4月23日（日）16:00–16:40

主要メディア掲載
- 写真・カメラ誌（紙）
  コマーシャルフォト（5月号）、カメラマン（5月号）、日本カメラ（5月号）、フォトテクニックデジタル（5月号）ほか
- ウェブサイト
  SHOOTING、Taable Note、editions treville online shop、東京美術通信　ほか

ご来場者数
合計12,031人（7日間）

ご来場者様の声
とても素敵でした。
現代の写真技術の進歩に、驚くばかりでした。
とても綺麗で、幻想的で、素敵でした。
楽しかったです。
無料とは思えないほど、素敵な展示会でした。
飽きない企画で面白いです。

FUJIFILM SQUARE 開館10周年記念写真展
中判ミラーレスデジタルカメラ「FUJIFILM GFX 50S」
織作峰子写真展「Reminisce my Aotearoa（レミニス マイ アオテアロア）」

2017年4月28日–5月10日　　テーマ②　写真の「今」を表現する

富士フイルムフォトサロン 東京・ミニギャラリー

世界中を旅しながら各国の美しい風景や人物の自然な表情を撮り続けている織作峰子氏。女性らしい優しい視点と繊細な色使いから生み出される作品には、国内外に数多くのファンがいます。このたび、その織作氏が最新鋭の中判ミラーレスデジタルカメラ「FUJIFILM GFX 50S」片手に、思い出の地、ニュージーランドを訪れ、約2週間にわたって撮影を敢行しました。

本写真展では、そこで出会った人々、雄大な風景などのさまざまなシーンが、まるでその場の空気感までも伝えるような写真で再現されています。（ニュースリリースより）

※ Reminisce my Aotearoa（レミニス マイ アオテアロア）
＝私のニュージーランドの思い出
（アオテアロア：マオリ語で「白く長い雲のたなびく地」）

展示作品点数
49点

クレジット
企画：富士フイルム株式会社
デザイン：三田村邦亮
プリント制作：写真弘社、プロラボ クリエイト

併催イベント
- 織作峰子氏によるトークショーイベント
  BSフジ「小山薫堂・東京会議」特別編
  『旅人のカメラ～世界一の星空
  ニュージーランド レイク・テカポを
  めざして～』放送記念トークショー
  イベント
  2017年4月29日（土）13:30–14:30
- 織作峰子氏による講演会
  「Reminisce my Aotearoa
  ニュージーランド心の旅」
  2017年5月4日（木・祝）13:30–15:00

主要メディア掲載
- 中央紙
  読売新聞夕刊（東京、5月2日）、読売新聞夕刊（高岡、5月2日）
- 写真・カメラ誌（紙）
  カメラマン（5月号）、CAPA（5月号）、日本カメラ（5月号）、フォトコン（5月号）、風景写真（5・6月号）
  ほか
- ウェブサイト
  デジカメWatch、YOMIURI ONLINE　ほか

ご来場者数
合計22,605人（13日間）

ご来場者様の声
すごく綺麗な写真ばかりでした。自然な感じが写真にあらわれていて、吸い込まれていく感じでした。また来ます。
壮大な大自然にあふれた作品の数々と、そこに生きる人々に対する深い愛情を感じました。
同世代で写真を少しやっておりますので大変勉強になり、心が清々しくなりました。来て良かったです。
異国の風景を堪能できて心が安らいだ。
写真には写真にしかない良さがあって、好きです。これからもさまざまな角度から写真の良さを伝える企画展を期待します。
織作さんに会えて感激しました。作品も大変美しく感動しました！
ニュージーランドにこんな景色があると初めて知った。自然の美しい中に普通の人がいるのがなんか変な感じで面白かった。
写真が大きくて迫力があって良かった。
非常に空気感が伝わる写真だった。
とてもすばらしい！感動しました。
とてもきれいで、たのしかった！

FUJIFILM SQUARE 開館10周年記念写真展
石川直樹 写真展「いつでもどこでも写ルンです」

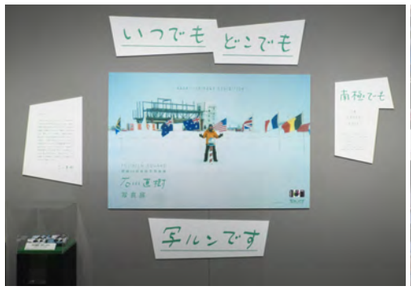
2017年8月11日–8月24日　　テーマ②　写真の「今」を表現する

富士フイルムフォトサロン 東京 スペース1

1986年に商品化された「写ルンです」は、当時まだ特別なものだったカメラや写真を、誰もが日常的に楽しむものに変える端緒となりました。デジタルカメラやカメラを内蔵するスマートフォンが普及した今日なお、撮影枚数の制限から大切にシャッターを切る感覚、現像するまで写真が見られないわくわく感、フィルムらしい仕上がりなど、「写ルンです」ならではのテイストが改めて支持されています。

本写真展では、北極点から南極点までを人力で踏破、23歳でエベレスト含む七大陸最高峰を史上最年少（当時）で登頂など、地球をフィールドに活躍し続けてきた写真家石川直樹氏が、シンプルな機構である「写ルンです」だからこそ捉えることのできた極地の記録から、機動力を発揮した旅先でのスナップなど、「写ルンです」で捉えたこれまでの旅の記録を展示します。

また、自身が新たな方向の写真や映像を担当する、ふくしまの中高生によるミュージカル創作プロジェクト「チャレンジふくしまパフォーミングアーツプロジェクト」（主催：福島県）に出演する中高生たちとのワークショップから生まれた、「写ルンです」で撮影した作品も展示。「写ルンです」が、記録だけにとどまらず、写す人と見る人の心をつなぐことも感じていただけます。
（ニュースリリースより）



展示作品点数
468点

クレジット
企画：富士フイルム株式会社
デザイン：株式会社 PANKEY
プリント制作：フォトグラファーズ・ラボラトリー、
　　プロラボ クリエイト

併催イベント
石川直樹氏によるギャラリートーク
2017年8月12日（土）15:00–15:40

販売物
石川直樹オリジナルデザイン写ルンです
　　（数量限定、4種×25個 計100個）
『POLAR』
『Mt.Fuji』
『For Everest　ちょっと世界のてっぺんまで』
『世界を見に行く。』
（すべてリトルモア）

ご来場者数
合計24,125人（14日間）

ご来場者様の声
写ルンですをいつも使っています！
なので今回の展示を見ることが興味深かったです。
とてもおもしろかったです。
感動しました。
初めて見て楽しかった。
興味深く拝見しました。

FUJIFILM SQUARE 開館10周年記念写真展
“チェキスクエア” instax SQUARE SQ10
『あるクリエイティブの目覚め』

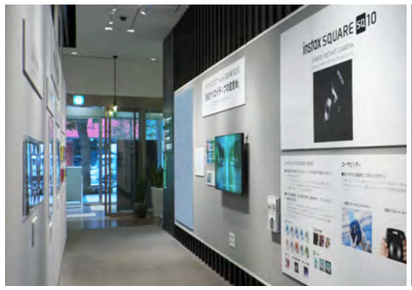
2017年8月11日–8月24日
ミニギャラリー

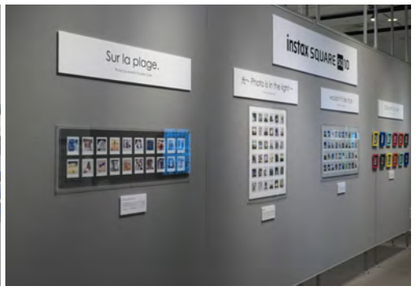
テーマ② 写真の「今」を表現する

撮ったその場ですぐにプリントが楽しめるインスタントカメラinstax “チェキ”シリーズの、新たなラインアップとして、2017年5月に発売したハイブリッドインスタントカメラ「instax SQUARE SQ10」（以下「SQ10」）を使った、5人のフォトグラファーの写真展を開催します。

本写真展では、スーパーモデルでありフォトグラファーでもあるヘレナ・クリステンセン氏が、SQ10でそのクリエイティビティーを解放させ撮影したオリジナル作品と、プロモーションムービーをご覧いただけます。あわせて、国内外で活躍する4人のフォトグラファーのSQ10を使った作品もご覧いただけます。

本写真展を通じて「現在」写真にできる新しい表現の世界の一端をご覧いただき、フジフイルム スクエア内の「タッチ＆トライコーナー」で実機を手にとって実感していただければ幸いです。（ニュースリリースより）





出展写真家
ヘレナ・クリステンセン、内田ユキオ、
瀬尾浩司、マリオン・デュビエール＝クラーク、
ミック・パーク

展示作品点数
122点

クレジット
企画：富士フイルム株式会社
デザイン：株式会社 企画

ご来場者数
合計24,125人（14日間）

ご来場者様の声
ヘレナ・クリステンセンのイベントまた楽しみにしてます。
いつも立ち寄ります。
おもしろかった。
とても素敵です。
また来たいと思いました。

FUJIFILM SQUARE 開館10周年記念写真展
日本山岳写真界の至宝・白籏史朗
フジクロームで描く 美しき日本の屋根

2018年1月4日–1月11日
富士フイルムフォトサロン 東京・ミニギャラリー

テーマ② 写真の「今」を表現する

21世紀以降デジタル化により写真の環境は大きく変化しましたが、フジクローム独自の発色、豊かな階調、奥行きのある表現は、今日なお銀塩フィルムを愛する皆さまに変わらぬ支持をいただいています。

山岳写真という未開拓だった撮影領域を確立、フジクロームの黎明期からその表現力を引き出し、今なお新たな創作と後進の指導に余念のない山岳写真の第一人者、白籏史朗氏。本写真展では、氏のホームグラウンドともいえる、北・中央・南アルプスの山々を中心に、富士山、八ヶ岳など、日本列島の中央に位置する名峰を一挙に集め、2018年の新春を飾る傑作選約40点を展示します。

フジフイルム スクエアが開館した2007年当時に、フジクロームRPプリント“ダイレクト”（反転現像方式のアナログカラーペーパー）で製作された傑作もふんだんに展示、 最新のデジタル画像処理技術を使ったフジカラープロフェッショナルプリントで製作した新作を加えて、究極の銀塩フィルムと銀塩プリントによる最高の山岳写真の歴史をご堪能いただきます。（ニュースリリースより）

展示作品点数
44点

クレジット
協力：南アルプス芦安山岳館、
　　山岳写真の会「白い峰」
後援：港区教育委員会
企画：富士フイルム株式会社
デザイン：三田村邦亮
プリント制作：写真弘社

販売物
2018年カレンダー（写真：白籏史朗）

ご来場者数
合計11,981人（8日間）

ご来場者様の声
新春にふさわしい展示でした。
巨大な写真で一つ一つの景色に迫力があり、とても魅力的でした。
綺麗な写真を見ることは気持ちが洗われる気がします。
とても素晴らしく、圧倒され、感激しました。
迫力があり見応えがあった。来て良かった。
山の写真に感動しました。
山の写真が見れてよかった。
チラシの文に感動しました！
山岳写真が好きだから期待してきました。
写真がきれいでした。

FUJIFILM SQUARE 開館10周年記念写真展
東京カメラ部×FUJIFILM 八木 進写真展
「CINEMA PARFUM」～子供のころ、映写室を愛したように～

2017年6月9日–6月15日　　テーマ③　写真の「明日」を追求する

富士フイルムフォトサロン 東京 スペース2

Web上で写真を公開、共有するソーシャルネットワーク（SNS）のひとつ、「東京カメラ部」と協力して写真展を開催します。

「東京カメラ部」の投稿者の一人である八木 進氏は、そのノスタルジックなテイストの作品で人気を博し、2015年、48万作品の中から選ばれた「10選」* の一人となりました。今回はWeb上に投稿された1点1点の画像を、銀塩プリントによる写真展という一連の作品表現に紡ぎ上げるプロセスに初挑戦していただきます。SNSというバーチャルな空間から生まれた映像が、リアルに実在する写真展になることで、「撮る者」と「観る者」の間により深い「つながり」が生まれることを実感していただければ幸いです。（ニュースリリースより）

＊「東京カメラ部」に2015年に投稿された48万作品の中から、運営がシェアした約2,500作品を、延べ3億人が閲覧、「いいね！」、コメント、シェアをした結果選ばれた上位10作品。（2015年3億人、2016年4.5億人は、東京カメラ部とその分室がタイムラインで紹介している作品の年間延べリーチ（閲覧者）数（Facebook、Twitterインサイト）に基づく。

展示作品点数
39点

クレジット
協力：東京カメラ部
企画：富士フイルム株式会社
デザイン：三田村邦亮
プリント制作：プロラボ クリエイト

併催イベント
八木 進 ギャラリートーク
進行役：塚崎秀雄氏（東京カメラ部）
2017年6月10日（土）
第1部 15:00–15:30
ゲスト：浅岡省一氏（東京カメラ部10選2015）
第2部 17:00–17:30
ゲスト：Koichi Ito氏（東京カメラ部10選2015）
2017年6月11日（日）
第1部 15:00–15:30
ゲスト：富久浩二氏（東京カメラ部10選2012・2013）
第2部 16:30–17:00
ゲスト：菊池賢二氏（東京カメラ部10選2012）/
藤谷弘樹氏（東京カメラ部コンテスト入賞者）

ご来場者数
合計9,763人（7日間）

ご来場者様の声
楽しかったです。
また、見に来たいです。
とても良いです。感謝！！
面白かったです！
来るたびに、展示されてる写真を参考にしています。

FUJIFILM SQUARE 開館10周年記念写真展
ゼラチンシルバーセッション×FUJIFILM
ゼラチンシルバーセッション「GSS Photo Award」受賞者展

2017年6月16日–6月22日　　テーマ③　写真の「明日」を追求する

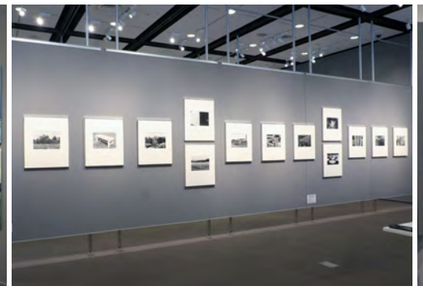
富士フイルムフォトサロン 東京 スペース2

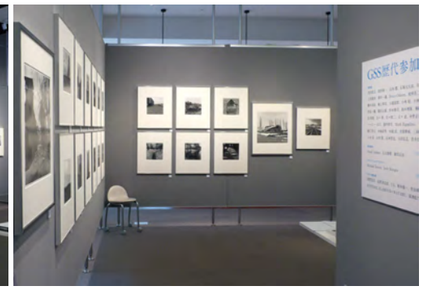
日本を代表する銀塩写真作家の自発的な活動「ゼラチンシルバーセッション（GSS）」が、その写真展開催と同時に新たな若い仲間と出会うため実施している「GSS Photo Award」の歴代受賞者3人による合同写真展を開催いたします。

GSSは、写真のデジタル化が進展する2006年に、「銀塩フィルム・銀塩プリント」独自の表現の維持・発展を訴える写真作家・藤井保、広川泰士、平間至、瀧本幹也の4氏が「Save the Film」を合言葉にスタートし、今年は計48人の写真家が出展し9回目の写真展を開催しました。銀塩写真を楽しみ、今後も続けていこうという思いを共にする若い新たな仲間と出会いたいという気持ちから2013年に「GSS Photo Award」を創設しました。

本受賞者展では、同アワード歴代の最優秀作品受賞者である、嶋田篤人氏の新作「木偶の房（でくのぼう）」、池田裕一氏「風のはじまり」、2017年第3回の最優秀作品に選ばれた叶野千晶氏「ラーゲルの記憶」を展示します。

スマートフォンでの撮影、SNSへの投稿と写真の表現方法が大きく広がる一方、写真文化を築いてきた源流である銀塩感光材料の表現は「明日」の写真の中にいかなる可能性を貫くのか。フィルムの味わいを語り継ぐ若い世代による写真展で、その可能性を模索します。（ニュースリリースより）





出展写真家
嶋田篤人、池田裕一、叶野千晶
（GSS Photo Award最優秀作品受賞者）

展示作品点数
46点

クレジット
協力：ゼラチンシルバーセッション、
AXISギャラリー
企画：富士フイルム株式会社
デザイン：三田村邦亮
プリント制作：プロラボ クリエイト

併催イベント
審査員・吉野弘章氏（東京工芸大学教授）と出展者3人による「GSS Photo Award」受賞者展 ギャラリートーク
2017年6月18日（日）14:00–14:40

販売物
展示作品を販売

主要メディア掲載
- 中央紙
朝日新聞夕刊（東京、6月2日）、朝日新聞（石川版、6月15日）、朝日新聞（福井版、6月15日）、朝日新聞（徳島版、6月16日）、朝日新聞（高知版、6月16日）ほか
- 写真・カメラ誌（紙）
コマーシャルフォト（7月号）、アサヒカメラ（7月号）、カメラマン（7月号）、日本カメラ（7月号）、風景写真（7・8月号）ほか
- ウェブサイト
朝日新聞デジタル、antenna、Pen Online、TOKYO ART BEAT　ほか

ご来場者数
合計9,533人（7日間）

ご来場者様の声
いつも楽しみにしております。
かっこよかったです。
もっと銀塩写真を多く扱って欲しいです。
今回も楽しめました。ありがとうございました。
綺麗な写真ばかりでした。

FUJIFILM SQUARE 開館10周年記念写真展
「写真を飾る 未来のカタチ」with GENIC
― 4人のガールズインスタグラマーによる写真と部屋の物語 ―

2018年3月23日 – 4月5日　　テーマ③　写真の「明日」を追求する

富士フイルムフォトサロン 東京・ミニギャラリー

スマホ、SNSが一般化し、いかに「インスタ映え」するかが写真の尺度にすらなった今日、写真の在り方はますます多様化しています。フジフイルム スクエアでは、これからの写真の姿を考える写真展として、女性のためのカメラとトラベルのライフスタイルマガジン「GENIC」（ミツバチワークス株式会社）とコラボし、インスタグラムで多くのフォロワーを持つ人気の高い4人のインスタグラマーに、会場をそれぞれの部屋に見立て写真で飾っていただきます。

プリントと一緒にパネル加工がネットで注文できる「WALL DECOR（ウォールデコ）」や、簡単に写真をパネル加工して飾れる「シャコラ」、人気の“チェキ”instax miniやスクエアフォーマットのinstax SQ10、スマホの写真がすぐチェキプリントにできるかわいいプリンターSP-2、SP-3など、富士フイルムのスマホの画像を簡単にリアルなアートに仕上げることができるプリントサービスをフルに活用。思い思いのアーティスティックな「写真を飾る 未来のカタチ」をご覧いただきます。（ニュースリリースより）

出展インスタグラマー
ERIKO、Atsuyo Takada、中嶋杏理、HARUE

展示作品点数
1,536点

クレジット
共催・企画・デザイン：
ミツバチワークス株式会社
プリント制作：
富士フイルムイメージングシステムズ株式会社（WALL DECORほか）、
プロラボ クリエイト

併催イベント
- ERIKO、Atsuyo Takada、HARUEによる
  「写真を飾る未来のカタチ」
  スペシャルトークショー
  2018年3月24日（土）14:00–15:00
- 大島 優氏（ミツバチワークス株式会社 アートディレクター）
  によるGENICが提案する
  「写真のあるLIFE STYLE」
  2018年3月31日（土）13:00–13:40
- フジフイルム スクエア コンシェルジュによる
  「あなたのお部屋をコーディネイトする
  プリント製品のご紹介」
  2018年3月23日（金）– 4月4日（水）
  14:00– / 17:00–（各回約30分）
  ※3月24日（土）は17:00– のみ

ご来場者数
合計21,331人（14日間）

ご来場者様の声
「未来のかたち」は新しい写真のかたちで
興味深く拝見しました。
オシャレな部屋に憧れました。参考にしたいです。
自分の部屋も写真で飾ってみようと思いました。
来てみて良かったです!!
写真専門の展示を見るのは初めてでしたが、
初心者でも興味深い内容だったので
良かったです。
4人のインスタグラマーの方たちの写真が
見られて良かったです。
展示の仕方もすごくかわいかったです。
楽しく素晴らしい作品を見れました！
子どもも楽しめるようにできている。
とても面白かったです！
楽しい企画でした ^_^
楽しめました！

2

FUJIFILM SQUARE 企画写真展
夏休み特別イベント “身近な自然のふしぎ”　佐藤岳彦写真展
「明治神宮 100年の森 ―大都会でつながる生命の物語―」

2017年8月11日 – 8月24日

富士フイルムフォトサロン 東京 スペース2

日本を代表する最先端のカルチャー発信都市、原宿。誰もが知るこの街のすぐ隣に、100年前からほぼ手つかずの広大な森があることをご存知でしょうか。お正月には300万人が列をなす「明治神宮」。その参道の脇で、自然はひっそりと、しかし着実に豊かな生命をつないできたのです。しかもこの森は、100年前の林学者たちがその生育過程を予測して作り上げた人工の森。2011年からの大規模調査の結果、当初の予測通りに、あるいは予測を超えて、動植物たちはつながり合い、支え合ってこの「100年の森」を育み続けていることが明らかになりました。

めまぐるしく移りゆく大都市・東京の真ん中に、時空を超えたかのように存在する明治神宮の森。オオタカが舞い、タヌキが暮らす森の魅力を、調査に参加してきた写真家・佐藤岳彦氏はカメラに収めてきました。世界中から人が集まる原宿駅のすぐ脇で、自然は密やかにワイルドなドラマを展開している！ 身近な自然を発見する楽しさを、佐藤氏の目を通してぜひ味わってください。そして都会に息づく自然の豊かさ、逞しさ、したたかさを、実感していただけたら幸いです。（ニュースリリースより）

※佐藤岳彦氏は、本展を含む活動が認められ、2018年6月に、
2018年公益社団法人日本写真協会賞新人賞を受賞されました。

展示作品点数
48点

クレジット
後援：株式会社講談社、港区教育委員会、
明治神宮
企画：株式会社風景写真出版
デザイン：富沢祐次
プリント制作：プロラボ クリエイト

併催イベント
- 写真家・佐藤岳彦と自然の専門家のお話
  「ナゾだらけ、都会の森の生き物たち」
  佐藤岳彦氏×伊藤弥寿彦氏（自然史映像プロデューサー）
  2017年8月11日（金・祝）・19日（土）
  11:00–（小・中学生向け）/ 14:00–（大人向け）
  佐藤岳彦氏×新里達也氏（昆虫学者）
  2017年8月12日（土）・18日（金）
  11:00–（小・中学生向け）/ 14:00–（大人向け）
  （各回約45分）
- 写真家・佐藤岳彦のお話
  「つながり合う生命のヒミツ」
  8月13日（日）– 17日（木）/
  8月20日（日）– 24日（木）
  14:00–（各回約30分）※各日1回
- オリジナル「100年の森新聞」を作ろう！
  2017年8月11日（金・祝）– 24日（木）
  10:00–19:00（最終日16:00まで）開催期間中毎日

販売物
DVD『明治神宮 不思議の森』（NHK）
『生命の森 明治神宮』（講談社）
『変形菌』（技術評論社）
『密やかな森』（当社フォトブック仕上げ）
ポストカード×5種
2Lプリント・アクリル額

ご来場者数
合計24,125人（14日間）

ご来場者様の声
都会のど真ん中にある自然が人工の森である
ことは知っていたが、展示を通してあんなに
多種多様な生き物が存在するのを初めて
知りました。それを素晴らしい写真で知ることが
出来て幸せです。
明治神宮が自然豊かでびっくりしました。
身近な明治神宮で、こんなにも素晴らしい情景
が撮れることに驚きました。
生き物、自然が実に美しくプリントされて
いました。素晴らしいと思いました。
タマムシがきれいに撮れていて感動した。
私も写真撮りに行きたいなぁと、思いました。
明治神宮の森の写真家の方のお話が聞けて
よかったです。
観に来た甲斐がありました。
癒やされた。
とても面白かったです。
生き物の写真と人の写真、どちらも生き生き
していました。
説明も書いてあって分かりやすかった。

FUJIFILM SQUARE 企画写真展
【写真家たちの新しい物語】
山口大志写真展「アマゾン―密林の時間」

2017年9月22日–10月5日
富士フイルムフォトサロン 東京 スペース2

富士フイルムフォトサロン 東京は、若手写真家の皆様に写真展を行う意義や楽しみを見出していただき、写真文化の発展につなげるため、2013年から年4回、公募展「写真家たちの新しい物語」を開催しています。当社は写真展を開催するためのプリントや制作費等を支援しています。

プロジェクト第12弾は、アマゾンをテーマに精力的に取材を続ける若手プロカメラマン、山口大志氏の写真展を開催いたします。

2010年から7年にわたって毎年アマゾン撮影を続け、多い時には1年の半分をアマゾンで過ごす写真家・山口大志氏。本展は、水と緑が織りなす「生命の宝庫」であるアマゾンを多角的に取材した山口氏の、首都圏での初めての個展です。想像を絶する自然や極彩色の植物、計り知れない多種多様な生き物たちが繰り広げるアマゾンの「生命の輝き」をご覧いただきます。バイタリティあふれる作品をご体感ください。（ニュースリリースより）

展示作品点数
51点

クレジット
後援：港区教育委員会
企画・デザイン：クレヴィス
プリント制作：プロラボ クリエイト

併催イベント
山口大志氏によるギャラリートーク
2017年9月22日（金）– 24日（日）、
9月29日（金）– 10月1日（日）
各日2回開催 14:00– / 16:00–（各回約45分）

販売物
『AMAZON』（クレヴィス）

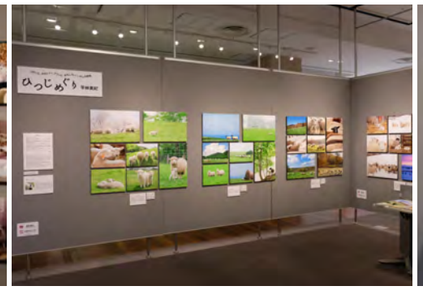
ご来場者数
合計23,811人（14日間）

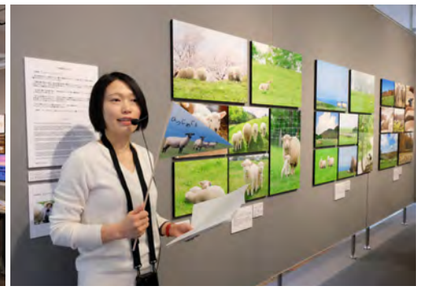
ご来場者様の声
バラエティーに富んでいて、見応えがありました。
写真が綺麗だったから自分も撮りたいと思いました。
アマゾンの色の鮮やかさが素敵でした。
アキレスモルフォ蝶が綺麗だった。
巨大パネルなのにこんなに鮮やかに見られることにびっくり！
写真の意義を見直しました。
素敵でした!!
美しかったです。
素晴らしいと思いました。

FUJIFILM SQUARE 企画写真展
コロッと、かわいい！フワッと、おもしろい！いやしの動物
角田修一「はりねずみの『あずき と うに』」／平林美紀「ひつじめぐり」

2017年10月27日–11月9日
富士フイルムフォトサロン 東京 スペース2

- 角田修一「はりねずみの『あずき と うに』」
  Instagramで“りんごを食べるあずき”の動画が紹介され、世界で一気にフォロワーが増加。いまやその数は15万人以上の「あずき」くんと、こちらも大人気の「うに」ちゃん。通称、「あずきくんパパ」の角田さんが、二人の仲の良いところ、喧嘩してふてくされているところ、まるで恋人同士のような姿をとってもかわいく撮影。デザイナーで、「うにちゃんママ」の金子玲子さんのエッセイと写真が、日々の生活に疲れた心にキュンと響いて、心癒やされます。
- 平林美紀「ひつじめぐり」
  かわいくて、おもしろくて、美しいひつじ。
  まるい体にかわいい顔の羊、臆病だけど好奇心旺盛で群れるのが好きな羊、広い放牧地で草を食む羊たちの織りなす美しい自然風景。そんな羊の風景に魅了され、日本、ニュージーランド、イギリスへ、ひつじをめぐって早10年以上になりますが、飽きるどころかますます羊に魅了されてしまい、これからも私のひつじめぐりは続きます。（ニュースリリースより）





展示作品点数
角田修一氏：53点
平林美紀氏：53点

クレジット
後援：港区教育委員会
企画・デザイン：株式会社日本写真企画
プリント制作：
富士フイルムイメージングシステムズ
株式会社（WALL DECOR）、
プロラボ クリエイト

併催イベント
角田修一氏、平林美紀氏による
ギャラリートーク
2017年10月28日（土）
14:00– 角田修一氏 / 16:00– 平林美紀氏
2017年11月3日（金・祝）
14:00– 平林美紀氏 / 16:00– 角田修一氏

販売物
- 角田修一氏
  『あずきとうに』（日本写真企画）
  『トゲもふ！』（角川書店）
  マグカップ2個セット、付箋、A4クリアファイル、缶バッジ、シール、ポストカード6枚セット
- 平林美紀氏
  『たのしいまきば』（パイインターナショナル）
  『マイペースのススメェー』（同上）
  『人生を楽しメェ～！』（同上）
  『COWBOOK』（日本写真企画）
  『カメラをつれてまきばへ行こう！』
  （技術評論社）
  ひつじめぐりポストカード6枚セット、ひつじポストカード4枚セット

ご来場者数
合計21,149人（14日間）

ご来場者様の声
「あずきとうに」可愛かったです。
動物写真はやはりかわいいです。
とってもかわいかったです。表情がとても良かった。
とても良かったです！癒やされました。
動物が可愛くて、綺麗な写真でした。
羊が可愛かったです。
可愛かった。またみたい。(^。^)
ハリネズミの写真気に入りました。
素敵な写真で、癒やされました。

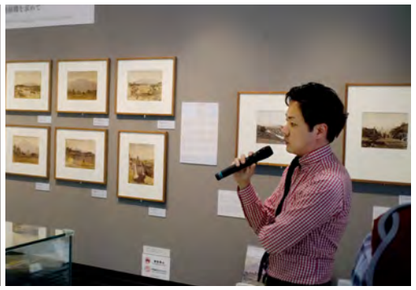
FUJIFILM SQUARE 写真歴史博物館 企画写真展
幕末明治の写真家が見た富士山　この世の桃源郷を求めて

2017 年 4 月 13 日 – 6 月 30 日
写真歴史博物館

日本を象徴する霊峰、富士山。その雄大にして壮麗な姿は古くから人々の心を惹きつけてきました。古代、富士山は水の神、火の神として崇められ、やがて江戸時代に入ると、富士山は仏道の修験場となり富士信仰が生まれました。その後、より世俗的な富士講が広まると、富士山は庶民の山として気軽に親しまれるようになります。富士山は時代ごとに人々の心情を映して歌や絵画などさまざまに表現され、そこには富士山を心の支えにしてきた日本人の精神的な景色を見ることができます。

本展では、明治時代に活躍した写真家、日下部金兵衛を中心に、フェリーチェ・ベアトやハーバート・ポンティングといった外国人写真家たちによる多彩な富士山の写真を展示いたします。彼らが残した写真の中には今も変わらぬ富士山の姿があり、その周辺には現代から想像もつかないような景観が広がっています。約130年前にタイムスリップし、幕末明治の写真家たちが追い求めた“この世の桃源郷”富士山の世界を存分にお楽しみください。（ニュースリリースより）

3



出展写真家
日下部金兵衛、フェリーチェ・ベアト、
ハーバート・ポンティング、小川一真、渡辺四郎、
水野半兵衛、ウィリアム・バルトン

展示作品点数
24 点

クレジット
協力：日本大学芸術学部
監修：打林 俊（日本学術振興会特別研究員（PD）/
東京大学大学院総合文化研究科）
後援：港区教育委員会
企画：フォトクラシック
デザイン：TypeShop_g
プリント制作：銀遊堂（複製）

併催イベント
打林 俊氏（本展監修）によるギャラリートーク
2017 年 5 月 13 日（土）14:00– / 16:00–
2017年6月10日（土）14:00– / 16:00–（各回約30分）

紹介関連書籍
『レンズが撮らえた 幕末明治の富士山』
（山川出版社）
『レンズが撮らえた 日本人カメラマンの見た
幕末明治』（山川出版社）
『絵画に焦がれた写真ー日本写真史における
ピクトリアリズムの成立ー』（森話社）

主要メディア掲載
朝日新聞（4 月 21 日）、読売新聞（5 月 19 日）、サンデー毎日（6/11 号）ほか雑誌、ウェブサイトなど多数

ご来場者数
合計 127,633 人（79 日間）

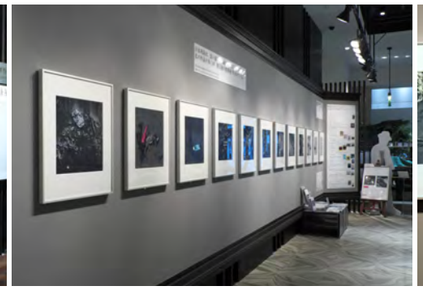
ご来場者様の声
富士山の景色がどの角度から写しても美しいのが良かったです。何度でも足を運んで貴重な写真をみてみたい。
幕末明治の写真家が見た富士山の素晴らしい展示を見て感動しました。もっと沢山の人に見て欲しいと思いました。
I like the old landscape photos of Fuji during Meiji era so much. And hope the photo album is sold as a souvenirs. Thanks you.
江戸時代の写真や貴重な資料を見れたのは、とても良い経験でした。
富士山の貴重な写真を見れて感動しました。
明治時代の写真には以前から興味がある。
間近で見れてよかった。
今回のような幕末の写真をもっと見たいです。
幕末の写真に感動しました！
期待どおりの素晴らしさでした。
今後も富士山をテーマにした展示を期待しています。

FUJIFILM SQUARE 写真歴史博物館 企画写真展
INTERFACE　写真家・東松照明を見る

第 1 部：2017 年 7 月 1 日 – 8 月 14 日
第 2 部：2017 年 8 月 15 日 – 9 月 30 日
写真歴史博物館

「戦後写真の巨人」と称される東松照明は 60 年代初頭、「家」「占領」「長崎」などのシリーズで日本の写真界に衝撃を与えました。60 年代末からは米軍基地の取材で沖縄に滞在したことが転機となり、同地を撮影した写真集『太陽の鉛筆』（1975 年）を境に作品制作をモノクロームからカラーへと転換させます。東松にはもう一つ転機となる重要な出来事がありました。それは 1986 年に受けた心臓のバイパス手術です。

本展では第 1 部と第 2 部に分け、その 1986 年以降に発表されたシリーズ「プラスチックス」（1988–1989 年）と「インターフェイス」（1968–1996年*）を展示いたします。これらの作品からは東松自身の中に宿る生命力と同時に、その生死すらも超越した哲学が感じられます。展覧会名にもなっている「インターフェイス」とは、本来、二つの領域が接している境界あるいはその界面を意味する言葉で、写真家自身の本質的なテーマとも重なるものです。本展で展示する 2 つのシリーズにも自然と文明、過去と未来などさまざまな「インターフェイス」が示唆され、東松の唯一無二の重層的な作品世界が浮かび上がります。東松照明とはどのような写真家だったのか。これまでまとまったかたちであまり発表されることのなかったこの 2 つのシリーズを通して感じていただければ幸いです。（ニュースリリースより）　*展示作品撮影年



展示作品点数
第 1 部：12 点
第 2 部：12 点

クレジット
協力：東松照明オフィス INTERFACE
後援：港区教育委員会
企画：フォトクラシック
デザイン：TypeShop_g
プリント制作：プロラボ クリエイト

併催イベント
東松泰子氏（東松照明オフィス INTERFACE 代表）による
ギャラリートーク
第 1 部：2017 年 7 月 29 日（土）14:00– / 16:00–
第 2 部：2017 年 9 月 2 日（土）14:00– / 16:00–
（各回約 30 分）

紹介関連書籍
『camp OKINAWA』（未来社）
『新編　太陽の鉛筆』（赤々舎）
『現代思想』2013 年 5 月臨時増刊号（青土社）

主要メディア掲載
毎日新聞夕刊（6 月 26 日）、電波新聞（4 月 25 日）、PHaT PHOTO（7・8 月号）、Pen（8/1 号）、Hanako（10.12 号）ほか雑誌、ウェブサイトなど多数

ご来場者数
合計 168,724 人（92 日間）

ご来場者様の声
いつもクオリティー高い内容で楽しみにしています。歴史博物館は素晴らしい。
東松さんの作品をもっと観たかったです。
いろいろな写真を見ることができて、参考になります。
見たことのない作品がたくさんあって、良かったです。
写真にはそれぞれ個性があると思った。
感動しました。
勉強させていただいて楽しいです。ありがとうございました。
良い企画でした。
写真が綺麗でした。

FUJIFILM SQUARE 写真歴史博物館 企画写真展

ブラジルの大地に生きた写真家・大原治雄

2017年10月1日–12月28日
写真歴史博物館

開拓農民としてブラジルへ渡り、アマチュア写真家として独自の写真世界を築き上げ、ブラジル国内で高い評価を得た日本人がいました。その名は大原治雄。

1909年、高知県に生まれた大原が、家族とともに集団移民として故郷を後にしてブラジルへ渡ったのは17歳の時でした。“夢の新天地”で彼らを待ち受けていたのは、コーヒー農園での奴隷労働に近い過酷な労働でした。その後、一家は原生林に覆われた未開拓の地パラナ州ロンドリーナに入植し、長い年月をかけて自らの農園を切り拓いていくことになります。小型カメラを入手した大原は、独学で写真を学び、日々の農作業の合間に家族や身近な風景を撮影していきました。1998年に初めて開催された個展が大きな反響を呼んだ大原の作品は、ブラジル国内で高い評価を受けました。大原の没後、2008年、日本人のブラジル移民100周年を記念してモレイラ・サーレス財団（IMS）に、ネガやプリントをはじめ写真用機材、日記など一連の資料が遺族により寄贈されました。

本展は、IMSの全面的な協力により、その代表作22点を展示。17歳でブラジルへ渡って以来、故郷の地を踏むことのなかった大原治雄の叶わなかった願いが、彼の残した写真による展覧会という形で果たされることになります。（ニュースリリースより）

展示作品点数
22点

クレジット
特別協力：ブラジル大使館、
モレイラ・サーレス財団（IMS）
後援：港区教育委員会
企画：コンタクト
デザイン：ナノナノグラフィックス

併催イベント
- 平間 至氏（写真家）によるトークショー
  2017年11月4日（土）14:00–/16:00–
  （各回約30分）
- 酒井邦博氏（NHKディレクター、NHK・Eテレ「日曜美術館～大地が育てた写真 ブラジル移民大原治雄」担当）
  トークショー
  2017年12月2日（土）14:00–/16:00–
  （各回約30分）

紹介関連書籍
『ブラジルの光、家族の風景』
（サウダージ・ブックス）

主要メディア掲載
テレビ「おはよう日本」「NHK首都圏ニュース」NHK（11月11日）、ラジオ「NHKニュース」NHK（11月11日）、朝日新聞夕刊（9月29日）、毎日新聞（10月20日）、週刊ポスト（11.10号）ほか雑誌、ウェブサイトなど多数

特記事項
皇后陛下ご覧（12月19日）

ご来場者数
合計146,268人（89日間）

ご来場者様の声
大原さんのような写真家の作品を見ることができて、とてもよかったです。
ブラジルで生まれ、懐しく、母を連れてきました。わが家も農業に従事し、この写真と全く同じ雰囲気に遠い昔に戻りました。
ありがとうございます。
大原治雄の新たな写真が見れて面白かったです。
大原さんの写真がもう少し有ると良い。
素晴らしい展示でした。
美しい。
どの写真も綺麗でした。
大変興味深い作品ばかりでした。

FUJIFILM SQUARE 写真歴史博物館 企画写真展

民俗写真の巨匠　芳賀日出男　伝えるべきもの、守るべきもの

2018年1月4日–3月31日
写真歴史博物館

約60年以上にわたって世界各地のさまざまな祭礼を撮り続けてきた芳賀日出男は、単なる記録写真にとどまらない「民俗写真」の地位を確立した写真家です。

芳賀は、1921年、満州の大連（現・中国大連市）に生まれました。大学受験のために初めて踏んだ母国の地で、その豊かな季節感に衝撃を受けます。カメラ好きの父親の元で小学生の頃から写真を撮り続けていた芳賀は、進学した慶應義塾大学でカメラクラブに入り写真にのめりこんでいきます。折口信夫の講義が民俗学に開眼する契機となり、後の芳賀に大きな影響を与えることになりました。卒業後は、日本の年中行事を中心に撮影を続け、1959年には『田の神』を出版。以後も精力的に各地の習俗を撮り続け、1970年の大阪万国博覧会では〈お祭り広場〉のプロデューサーにも任命されました。

本展では、これまで撮影された40万点にものぼる作品から、芳賀日出男の原点ともいえる稲作儀礼を中心とした祭礼と人生儀礼をテーマにした約30点を展示します。あらゆる場所に宿る神々と共に生き、日々の恵みに感謝を捧げてきた日本の祭礼を確かな眼差しでとらえた芳賀の作品は、私たちが生きている「今」という時間を紡いでくれた古（いにしえ）からの長い時間の連なりに思いを馳せるとともに、豊かな美しい自然の恵みに改めて畏敬の念を起こさせてくれます。（ニュースリリースより）

展示作品点数
29点

クレジット
協力：株式会社芳賀ライブラリー
後援：港区教育委員会
企画：コンタクト
デザイン：ナノナノグラフィックス
プリント制作：写真弘社

併催イベント
- 芳賀日出男氏、芳賀日向氏による
  ギャラリートーク
  2018年1月4日（土）15:00–
  2018年2月3日（土）14:00–
  2018年3月3日（土）14:00–（各回約30分）
- 芳賀日向氏によるギャラリートーク
  2018年3月10日（土）14:00–/16:00–
  （各回約30分）

紹介関連書籍
『写真民俗学』（角川書店）
『折口信夫と古代を旅ゆく』
（慶應義塾大学出版部）
『日本の民俗』『祭りと芸能』『暮らしと生業』
（角川ソフィア文庫）
『写真で辿る折口信夫の古代』
（角川ソフィア文庫）

主要メディア掲載
ラジオ「GOOD NEIGHBORS」J-WAVE（1月29日）、日本経済新聞夕刊（1月4日）、日本経済新聞（3月1日）、東京新聞（1月18日）ほか雑誌、ウェブサイトなど多数

ご来場者数
合計118,355人（87日間）

ご来場者様の声
民俗的な展示を見ることができて
大変満足しました。
芳賀さんの写真展ユニークで良かったです。
民俗写真が興味深かった。
芳賀さんの話が聞けたのでとても良かったです。
民俗写真展面白かったです。
日本の古い民俗文化が良かったです。
芳賀先生が欧州にも目を向けて
いらして視野が広く、さすがだと思った。
芳賀さんの作品が個性的で楽しかったです。
芳賀先生のトークがよかったです！

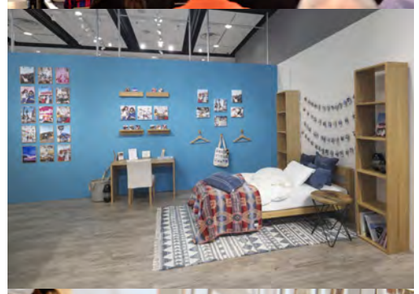
富士フイルムフォトサロン 東京・ミニギャラリー …開催写真展 計82本

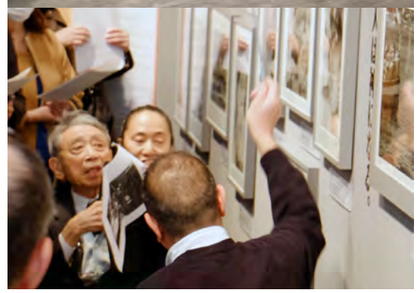
		併催イベント				会場		
						富士フイルムフォトサロン東京		
		ギャラリートーク	講演会	上映会	その他	スペース 1	スペース 2	ミニギャラリー
【FUJIFILM SQUARE 開館10周年記念写真展】『フジフイルム・フォトコレクション』展 日本の写真史を飾った写真家の「私の1枚」	2017年3月24日 – 4月12日	●	●		解説会	※写真歴史博物館も使用		
FUJIFILM X-T20・X100F作品展	2017年4月14日 – 4月17日							
第38回 よみうり写真大賞 入賞作品発表展	2017年4月14日 – 4月20日	●						
蒲澤利行写真展「イーハトーブの旅」	2017年4月14日 – 4月20日							
【FUJIFILM SQUARE 開館10周年記念写真展】中判ミラーレスデジタルカメラ「FUJIFILM GFX 50S」 中村成一写真展「dewy（デューイー）」	2017年4月21日 – 4月27日	●						
【FUJIFILM SQUARE 開館10周年記念写真展】中判ミラーレスデジタルカメラ「FUJIFILM GFX 50S」 野波 浩写真展「reflection（リフレクション）」	2017年4月21日 – 4月27日	●						
【FUJIFILM SQUARE 開館10周年記念写真展】中判ミラーレスデジタルカメラ「FUJIFILM GFX 50S」 織作峰子写真展「Reminisce my Aotearoa（レミニス マイ アオテアロア）」	2017年4月28日 – 5月10日		●		トークショー			
第26回 林忠彦賞受賞記念写真展　有元伸也「TOKYO CIRCULATION」	2017年5月12日 – 5月18日	●						
水のこと「水の国、わかやま。」Photo by 内山りゅう	2017年5月12日 – 5月18日	●						
第9回 六本木フォトコンテスト入賞作品展	2017年5月12日 – 5月25日							
日本自然科学写真協会　第38回SSP展「自然を楽しむ科学の眼2017-2018」	2017年5月19日 – 5月25日	●						
鬼海弘雄写真展「India 1979-2016」	2017年5月26日 – 6月1日	●						
高橋修悦写真展「走れ、小海線」	2017年5月26日 – 6月1日	●						
FUJIFILM X-Pro2・X-T2　～ 岡本洋子 ～	2017年5月26日 – 6月1日							
山本一写真展「故郷かさねいろ」～日本の美意識～	2017年6月2日 – 6月8日	●						
東京写真月間2017　日本写真協会賞受賞作品展	2017年6月2日 – 6月8日	●						
藤村大介写真展「世界のまがとき」第1部 ～街～	2017年6月2日 – 6月15日				写真教室			
宇田川哲夫写真展「ペルーアンデスの高峰」～コルディエラ・ブランカ、ワイワッシュを巡りて～	2017年6月9日 – 6月15日	●						
【FUJIFILM SQUARE 開館10周年記念写真展】東京カメラ部×FUJIFILM　八木 進写真展 「CINEMA PARFUM」～子供のころ、映写室を愛したように～	2017年6月9日 – 6月15日	●						
日本建築写真家協会写真展「光と空間」建築の美　Part12	2017年6月16日 – 6月22日	●						
【FUJIFILM SQUARE 開館10周年記念写真展】ゼラチンシルバーセッション×FUJIFILM ゼラチンシルバーセッション「GSS Photo Award」受賞者展	2017年6月16日 – 6月22日	●						
FUJIFILM X-T2・X100F　葉っぱのある風景　～宮沢あきら～	2017年6月16日 – 6月29日							
フォトグループ いぶき 写真展「2017 四季のいぶき」	2017年6月23日 – 6月29日							
第40回 女性だけの写真展	2017年6月30日 – 7月6日							
第10回 山中湖フォトグランプリ 写真展	2017年6月30日 – 7月13日							
lighthouse Ⅴ「明治期の保存灯台」野口毅写真展	2017年7月7日 – 7月13日	●						
津田浩司写真展「草花に寄り添って」	2017年7月7日 – 7月13日							
“PHOTO IS” 想いをつなぐ。50,000人の写真展 2017	2017年7月14日 – 7月19日							
東京ディズニーリゾート®・フォトグラフィープロジェクト 「イマジニング・ザ・マジック」写真展 “夢と魔法の贈りもの”	2017年7月21日 – 8月9日							
【FUJIFILM SQUARE 開館10周年記念写真展】 石川直樹 写真展「いつでもどこでも写ルンです」	2017年8月11日 – 8月24日	●						
【FUJIFILM SQUARE 企画写真展】夏休み特別イベント “身近な自然のふしぎ” 佐藤岳彦写真展 「明治神宮 100年の森 ―大都会でつながる生命の物語―」	2017年8月11日 – 8月24日	●			体験			
【FUJIFILM SQUARE 開館10周年記念写真展】 “チェキスクエア” instax SQUARE SQ10『あるクリエイティブの目覚め』	2017年8月11日 – 8月24日							
伊勢谷紳祐写真展「In my eyes」	2017年8月25日 – 8月31日	●						
JAPAN PHOTO 2016「日本の祭りフォトコンテスト」入賞作品展	2017年8月25日 – 8月31日	●						
富士フイルムフォトコンテスト 歴代グランプリ作品展	2017年8月25日 – 9月7日							
2017 全日本読売写真クラブ展	2017年9月1日 – 9月7日	●						
全日写連フォトフェスティバル2017	2017年9月8日 – 9月14日	●						
魯晴（ロセイ）写真展「未知の引力」コロジオン湿板写真より “The unknown attractive force”	2017年9月8日 – 9月21日							
第90回 日本写真会展覧会	2017年9月15日 – 9月21日	●						
日本航空写真家協会写真展「19th SKY GRAFFITI 2017」	2017年9月15日 – 9月21日	●						
フォト寺子屋「一の会」第7回「しあわせの風景」	2017年9月22日 – 9月28日	●						
【FUJIFILM SQUARE 企画写真展】写真家たちの新しい物語 山口大志写真展「アマゾン―密林の時間」	2017年9月22日 – 10月5日	●						
藤村大介写真展「世界のまがとき」第2部 ～水辺～	2017年9月22日 – 10月5日				写真教室			
小松ひとみ写真展「みちのく色語り」	2017年9月29日 – 10月5日	●						

		併催イベント				会場		
						富士フイルムフォトサロン東京		
		ギャラリートーク	講演会	上映会	その他	スペース 1	スペース 2	ミニギャラリー
【FUJIFILM SQUARE 開館10周年記念写真展】 ～世界中に影響を与えた写真家集団～「マグナム創設の原点」	2017 年 10 月 6 日 – 10 月 25 日		●	●	解説会			
高橋和子写真展「大地のハーモニー」	2017 年 10 月 27 日 – 11 月 2 日							
【FUJIFILM SQUARE 企画写真展】コロッと、かわいい！フワッと、おもしろい！いやしの動物 角田修一「はりねずみの『あずき と うに』」／ 平林美紀「ひつじめぐり」	2017 年 10 月 27 日 – 11 月 9 日	●						
GFX 50S・X-T2　花・風景 ～岡本洋子～	2017 年 10 月 27 日 – 11 月 9 日							
“スマホ de チェキ” instax SHARE SP-3　MY SQUARE GALLERY	2017 年 10 月 27 日 – 11 月 16 日							
第36回 ハッセルブラッドフォトクラブ写真展	2017 年 11 月 3 日 – 11 月 9 日							
第21回 AMATERAS 展「太陽 月 空 海 大地」	2017 年 11 月 10 日 – 11 月 16 日	●						
野鳥賛歌写真クラブ作品展	2017 年 11 月 10 日 – 11 月 16 日	●						
【FUJIFILM SQUARE 開館10周年記念写真展】 二十世紀の巨匠　美と崇高の風景写真家 アンセル・アダムス	2017 年 11 月 17 日 – 12 月 6 日	●		●	解説会			
2017 富士フイルム営業写真コンテスト 入賞作品発表展	2017 年 12 月 8 日 – 12 月 14 日	●						
2017年日本雑誌写真記者会写真展	2017 年 12 月 8 日 – 12 月 14 日							
女性だけの写真教室 卒業作品展	2017 年 12 月 8 日 – 12 月 14 日							
第13回 美しい風景写真100人展	2017 年 12 月 15 日 – 12 月 28 日	●						
第13回 美しい風景写真100人展　学生の部	2017 年 12 月 15 日 – 12 月 28 日	●						
【FUJIFILM SQUARE 開館10周年記念写真展】 日本山岳写真界の至宝・白籏史朗　フジクロームで描く 美しき日本の屋根	2018 年 1 月 4 日 – 1 月 11 日							
企画写真展　フィリップ・マリニグ写真展　- KOKODE KAMIGAMI、ここで神々 -	2018 年 1 月 12 日 – 1 月 18 日	●			作品制作実演			
栗原義孝写真展「～野にも山にも～　茶の郷 風景遺産」	2018 年 1 月 19 日 – 1 月 25 日	●						
2017年 毎日写真コンテスト優秀作品展	2018 年 1 月 19 日 – 1 月 25 日							
渡辺美沙写真展「目に見えないものを写真に」	2018 年 1 月 19 日 – 2 月 1 日							
2017年 第13回「名取洋之助写真賞」受賞作品 写真展	2018 年 1 月 26 日 – 2 月 1 日	●						
小宮山隆司写真展「オーロラの大地」	2018 年 1 月 26 日 – 2 月 1 日	●						
第28回 NHK学園生涯学習写真展	2018 年 2 月 2 日 – 2 月 8 日							
「麻布未来写真館」パネル展	2018 年 2 月 2 日 – 2 月 15 日							
阪口正太郎写真展「あらら、こんなところに。」	2018 年 2 月 9 日 – 2 月 15 日							
田中 進 写真展「山里が輝くとき ～開田高原～」	2018 年 2 月 9 日 – 2 月 15 日							
小川康博写真展「日本海沿い」	2018 年 2 月 16 日 – 2 月 22 日							
須釜 聡 写真展「やさしき能登」	2018 年 2 月 16 日 – 2 月 22 日	●						
X-T2 の花・風景　～ 岡本洋子 ～	2018 年 2 月 16 日 – 3 月 8 日				写真教室			
清水重蔵 写真展　樵人「BUNAJIN - 新潟 -」	2018 年 2 月 23 日 – 3 月 1 日	●						
Group18%GRAY 写真展「ひかりと遊ぶ」	2018 年 2 月 23 日 – 3 月 1 日	●						
第39回よみうり写真大賞入賞作品発表展	2018 年 3 月 2 日 – 3 月 8 日	●						
巽 宏安 写真展「桜行脚 Ⅳ」	2018 年 3 月 2 日 – 3 月 8 日	●						
第69回 中日写真展・東京展	2018 年 3 月 9 日 – 3 月 15 日	●						
山村健児＆齋藤朱門 写真展「Dynamic Landscape Photography Ⅱ」	2018 年 3 月 9 日 – 3 月 15 日	●						
鎮守の森のプロジェクト写真展「津波からいのちを守る防災の森づくり」	2018 年 3 月 9 日 – 3 月 22 日							
ハガタカシ写真展「Layer」	2018 年 3 月 16 日 – 3 月 22 日	●						
田中 晋写真展「Crimson Altron is Forever　～中国蒸気列車の旅～」	2018 年 3 月 16 日 – 3 月 22 日	●						
【FUJIFILM SQUARE 開館10周年記念写真展】「写真を飾る 未来のカタチ」with GENIC（ジェニック） ―4人のガールズインスタグラマーによる写真と部屋の物語 ―	2018 年 3 月 23 日 – 4 月 5 日	●			製品紹介			

写真歴史博物館 ... 開催写真展 計4本

幕末明治の写真家が見た富士山　この世の桃源郷を求めて	2017 年 4 月 13 日 – 6 月 30 日	●			
INTERFACE　写真家・東松照明を見る	2017 年 7 月 1 日 – 9 月 30 日	●			
ブラジルの大地に生きた写真家・大原治雄	2017 年 10 月 1 日 – 12 月 28 日	●			
民俗写真の巨匠　芳賀日出男　伝えるべきもの、守るべきもの	2018 年 1 月 4 日 – 3 月 31 日	●			





FUJIFILM SQUARE（フジフイルム スクエア）は2017年度、開館10周年記念写真展12本を含む19本の企画展と公募展他を合わせ、総計86本の写真展を開催し、ご来場者数は58万人を超えました。幅広い年齢層のお客様にご来場いただき、メディアでも数多く取り上げられました。また、ギャラリートーク、講演会、上映会等、鑑賞サポート活動に力を入れ、延べ参加人数は1万4,000人におよぶ規模となりました。これからも、出展者の皆様、ご来場者の皆様と共に、フジフイルム スクエアの活動等を通じ、写真文化の継承・発展に取り組んでいきます。

来場実績

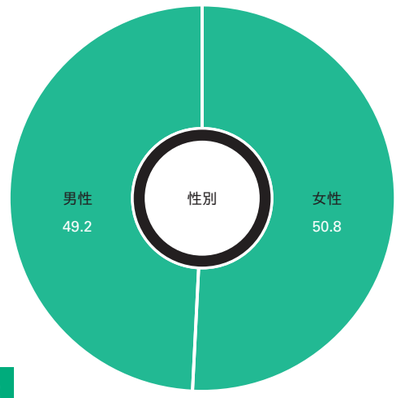
フジフイルム スクエアは、写真の素晴らしさ、楽しさ、感動、残す大切さを伝える活動の一環として、クオリティの高いさまざまなジャンルの写真を展示し、幅広く、多数のお客様にご来場いただいています。

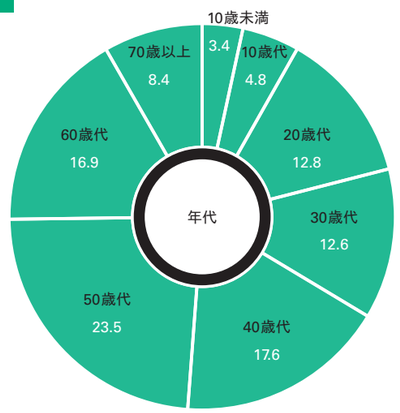
来場者数

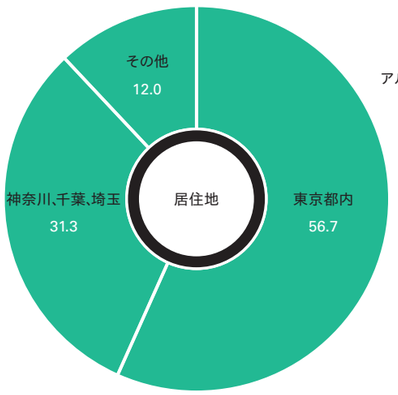
年間合計　約58万人

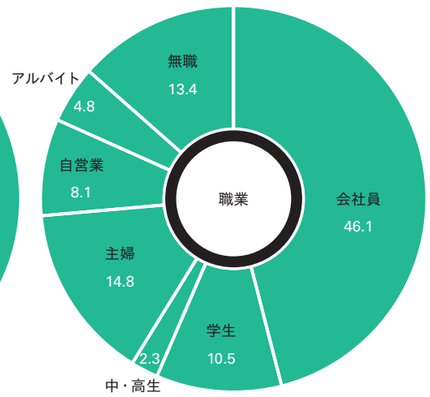
来場者属性

※自社アンケート調査による。（回答人数9,158人、グラフの単位は％）









交通広告、記事掲載

フジフイルム スクエアでは、下記の主要交通広告にて施設および企画展をご案内しています。また、メディアで数多くご紹介いただいております。当社の媒体であるフジフイルム スクエア公式ホームページやSNSでも多くの方々に支持されています。

主要交通広告

日比谷線・六本木駅、日比谷線・恵比寿駅、千代田線・乃木坂駅、都営大江戸線・六本木駅、都営大江戸線・青山一丁目駅、東京ミッドタウン

主要メディア掲載

- テレビ
  NHK「おはよう日本」「NHK首都圏ニュース」
- ラジオ
  NHK「NHKニュース」、J-WAVE「GOOD NEIGHBORS」、TOKYO FM「TOKYO FM WORLD」
- 中央紙、ブロック紙、地方紙
  朝日新聞、日本経済新聞、毎日新聞、読売新聞、東京新聞、高知新聞　ほか
- 写真・カメラ誌（紙）
  『アサヒカメラ』、『カメラマン』、『CAPA』、『コマーシャルフォト』、『週刊カメラタイムズ』、『日本カメラ』、『PHaT PHOTO』、『風景写真』、『フォトコン』、『フォトテクニックデジタル』 ほか
- その他新聞
  電化新聞、電波新聞、TOKYO HEADLINE、日本写真興業通信、北総よみうり、リビング東京東　ほか
- その他雑誌
  『Weekly プレイボーイ』、『岳人』、『ギャラリー』、『暮らすめいと』、『サンデー毎日』、『週刊文春』、『週刊ポスト』、『Hanako』、『婦人公論』、『ブレーン』、『Pen』、『MEN'S EX』、『山と渓谷』 ほか
  （五十音順）

自社媒体

- 公式ホームページ … ユーザー数264,878人
  （2017年4月1日から2018年3月31日まで）
- Facebook/Twitter … 投稿件数165件

鑑賞サポート活動

写真展は「撮った人＝出展者」の気持ちを「見た人＝鑑賞者」に伝える場です。フジフイルム スクエアは、写真展を通じてより多くの「人」と「人」の心をつなぐために、さまざまな鑑賞サポート活動を行っています。

ギャラリートーク

写真展の会期中、写真展会場内で作品解説を行っています。出展者ご自身に解説いただく機会も多く、出展者と鑑賞者の交流の場ともなっています。

ギャラリートーク、解説会、トークショー	開催回数	参加人数
富士フイルムフォトサロンでの企画写真展	182回	5,482人
公募展	88回	2,840人
写真歴史博物館	13回	750人
	計283回	計9,072人

講演会、上映会、写真教室、体験

写真に親しむ機会を幅広くご提供するために、企画展に合わせたイベントを企画開催しています。

講演会	参加人数
『フジフイルム・フォトコレクション』展　日本の写真史を飾った写真家の「私の1枚」 飯沢耕太郎氏（写真評論家）による講演会	85人
織作峰子写真展「Reminisce my Aotearoa（レミニス マイ アオテアロア）」 織作峰子氏による講演会	169人
～世界中に影響を与えた写真家集団～「マグナム創設の原点」 本展キュレーターによる記念講演会	90人

上映会	
～世界中に影響を与えた写真家集団～「マグナム創設の原点」 マグナム・フォトを映画で知る会	170人
「二十世紀の巨匠 美と崇高の風景写真家 アンセル・アダムス」 写真家・三好耕三氏によるギャラリートーク＆上映会	325人

写真教室	
藤村大介写真展「世界のまがとき」　藤村大介氏による「夜景撮影セミナー」	105人
藤村大介写真展「世界のまがとき」　藤村大介氏による「夜景撮影会」	32人
岡本洋子 ワンポイントレッスン ～テーブルフォト・かわいい花の撮影	88人
Xセミナーズ 岡本洋子氏による花の写真撮影セミナー *1	67人
こばやしかをる～スマホ写真・ワンランクアップ教室～ *2	81人

*1　2018年3月12日（日）13:30–15:00に開催
*2　2018年3月11日（日）・16日（金）・18日（日）・22日（木）　各日11:00–11:40 / 13:00–13:40に開催

体験	
佐藤岳彦写真展「明治神宮 100年の森 ―大都会でつながる生命の物語―」 オリジナル「100年の森新聞」を作ろう！	1,603人

写真歴史博物館コンシェルジュツアー

富士フイルムで写真製品の研究・開発・技術サポートに長年携わったOBがコンシェルジュとして、毎日15:30から約30分間、写真の歴史と企画展について分かりやすく解説しています。

	参加人数
コンシェルジュツアー 2017年4月1日から2018年3月31日毎日1回 （年末年始休館日2017年12月29日～ 2018年1月3日を除く）	2,058人

写真体験

フジフイルム スクエアでは、富士フイルムのインスタントカメラ／インスタント写真システム「チェキ」やスマホプリントの写真体験を実施しています。

チェキ撮影体験 （2017年3月1日から2018年3月31日まで）	計773人
スマホプリント出力体験 （2017年3月23日から2018年4月5日まで）	計520人

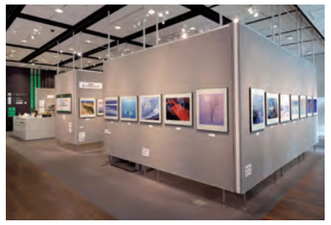
ご来場者様の声

フジフイルム スクエアでは、ご来場の皆様からさまざまなご感想をいただいています。展示作品に対する感動の声を筆頭に、プリントの価値や質の高さ、鑑賞サポート活動、接客スタッフのホスピタリティなどを高く評価するコメントをいただいています。

バラエティーに富んだ作品、プリントの良い作品が多くあり
いつ来ても良いと思いました。
いつも無料で質の高い展示をやってくださっていて、
写真文化に対する意識が高いと思います。
良質な文化的な作品に気軽に出会えて感謝です。
いろいろなカメラや写真を見て、自分も本格的な写真を撮りたくなった。カメラへの興味が高まった。
写真が好きになった。
コンテストに応募したいと思いました！
コンシェルジュの方の話を聞いて、とてもよく理解できました。
展示だけでなく触れて楽しめたのが良かったです。
いつも楽しく拝見しております。子どもも楽しみにしています。
気軽に立ち寄れる雰囲気が良いです。
案内係の方がとても丁寧に対応してくださいました。
写真には写真にしかない良さがあって、好きです。これからもさまざまな角度から写真の良さを伝える企画展を期待します。
毎回楽しませていただいております。新しい文化を知れる機会です。
富士フイルムに写真文化を守ってほしい。
来る度に感動します。
歴史のある会社なのは知っていたが、より親しみやすさを感じた。
気軽に入れる写真美術館のよう。
綺麗で居心地のいいギャラリーです。
映像の原点が面白く、カメラの展示も見応えがあり、
充実していました。

写真文化を通じた文化貢献活動は、富士フイルムだけでは成し得る活動ではありません。素晴らしい作品を発表してくださった出展者の皆様、そして、多数ご来場いただいた鑑賞者の皆様がいらっしゃったからこそ実現できたものです。心より感謝いたします。これからも、出展者の皆様、鑑賞者の皆様と共に真の写真の価値を伝え続け、「FUJIFILM SQUARE」の活動などを通じ、写真文化を守り育んでいきます。

施設案内



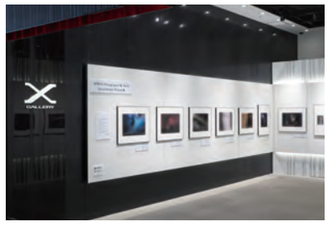
富士フイルムフォトサロン 東京

写真文化の向上と写真の普及に寄与する、クオリティの高いさまざまなジャンルの写真を展示する写真ギャラリーです。プロ・アマを問わず写真の魅力、素晴らしさを表現した作品を厳選し、一週間単位で写真展を開催しております。公募についてはホームページをご覧ください。

ミニギャラリーでは、富士フイルムの企画による写真展を随時実施しております。

写真歴史博物館

貴重なアンティークカメラや富士フイルムの歴代カメラの展示に加え、歴史的に価値のある写真を展示する企画展も定期的に開催しています。写真の文化、カメラの歴史的進化をご覧いただける希少価値の高い博物館です。170 年を超える写真文化の変遷をぜひお楽しみください。



ギャラリー X

世界中のプロ写真家が「GFX・X シリーズ」で撮影して、富士フイルムの高画質プリントで出力した作品を常設展示します。また、「GFX・X シリーズ」の魅力をより多くの方々に体感していただくための情報発信基地として、プロ写真家によるトークショーやセミナーなど、さまざまな企画を開催しています。

タッチフジフイルム

デジタルカメラコーナー

富士フイルムのミラーレスデジタルカメラ「GFX・X シリーズ」、交換レンズなどの最新製品を手にとってご体験いただけます。デザインや操作感、機能性などをじっくりとお楽しみください。

フジフイルム スクエア 2 階 東京サービスステーションでは製品の修理受付や簡易点検、ご相談をお受けしております。

タッチフジフイルム

写真をもっと楽しく！ご提案コーナー

スマートフォンからも簡単にご注文いただけるプリントやフォトブックバリエーションに加え、写真をもっと気軽に飾っていただくための「WALL DECOR」や、写真を使ったオリジナルギフト「PHOTOGOODS」をご紹介。さらに撮ったその場でプリントができる大人気 instax シリーズをフルラインアップするなど、新しい写真の楽しみ方をご提案していくコーナーです。

ASTALIFT ROPPONGI

フジフイルム ヘルスケアショップ

TVCM でおなじみのスキンケア化粧品「アスタリフト」をはじめ、長年の写真分野の研究開発で培った独自の技術を応用した富士フイルムのスキンケア化粧品・サプリメントを全商品取りそろえています。化粧品やドリンクをお試しいただき、専門スタッフのアドバイスを受けることもできます。当店限定のお得なキャンペーンなども実施していますので、ぜひお立ち寄りください。

FUJIFILM SQUARE
フジフイルム スクエア

開館時間 10:00–19:00（入場は18:50まで）
無休（年末年始を除く）
入館無料

〒 107-0052 東京都港区赤坂 9-7-3
東京ミッドタウン・ウェスト 1F
TEL. 03-6271-3350（10:00–18:00）
http://fujifilmsquare.jp

都営大江戸線「六本木駅」8 番出口と直結
東京メトロ日比谷線「六本木駅」東京ミッドタウン行き地下通路で徒歩 4 分
東京メトロ千代田線「乃木坂駅」3 番出口より徒歩 5 分

- 本活動報告書に掲載されている「主要メディア掲載」および「ご来場者数」のデータは自社調査に基づくものです。
- 「ご来場者数」は写真展期間中のフジフイルム スクエア全体のご来場者数の合計です。
- 「ご来場者様の声」および「来場者属性」は、2017年度に開催された写真展期間（2017年3月24日から2018年4月5日）に実施された自社アンケート調査に基づくものです。
- 年間を通じた写真展運営の協力会社は、下記のとおりです。
  展示作業：株式会社フレームマン
  展示物・告知物制作：富士フイルムイメージングシステムズ株式会社
  運営協力：富士フイルムビジネスエキスパート株式会社

フジフイルム スクエア
2017年度 活動報告書
フジフイルム スクエア 開館10周年記念版

発行日：2018年6月
発行：富士フイルム株式会社　宣伝部
〒107-0052 東京都港区赤坂9-7-3
発行者：青木宇雄

編集：フォトクラシック
デザイン：TypeShop_g
制作：株式会社 博秀工芸

©富士フイルム株式会社　禁無断転載